

SGHグローバルリーダーシップ調査 報告書

2015年度



University of Tsukuba



SUPER GLOBAL HIGH SCHOOL

筑波大学附属学校教育局
筑波大学附属高等学校

緒 言

本報告書は、スーパーグローバルハイスクール幹事校の管理機関である筑波大学附属学校教育局により企画され、研修効果測定の一環として、平成27年2月～5月にかけて実施された「SGHグローバルリーダーシップ調査」の調査結果である。

筑波大学を中心とした大学研究者と実務家から編成された研究班により設計、実施、分析され、学際的な視点から、「高校生の身近にあるグローバル化に対する意識と行動の実態を明らかにすること」を目的として実施された。

本研究班からの調査協力要請に対し、協力回答をいただいた平成26年度スーパーグローバルハイスクールの指定校、アソシエイト校に所属する高等学校の生徒を対象として「クリティカル・インシデント（危機的出来事）」という概念を通して、インタビュー調査とアンケート調査が組み合わせられ、現在の高校生がどのように異文化を認識し、その問題解決に向けた行動が試みられたのかを明らかにしている。

調査結果から、いくつかの異文化に対する重要な意識特性と行動様式の特徴が発見されたことは大変興味深く、これからの高等学校教育における問題解決型のグローバル教育に資することが期待される。

改めて、お忙しいところ本調査にご協力いただいたスーパーグローバルハイスクール校の関係者各位、並びに調査協力者として回答いただいた高校生みなさんに心より感謝を申し上げます。

筑波大学副学長・理事、附属学校教育局教育長
石隈 利紀

目 次 (括弧内は執筆者)

緒言	1
第1章 調査概要 (永井・川崎)	4
1-1. はじめに	4
1-2. 調査方法	4
1-3. アンケート調査の質問項目と実施	5
1-4. 調査回答の結果	6
第2章 海外経験と異文化体験 (飯田)	8
2-1. 渡航経験	8
2-2. 渡航先国数	8
2-3. 国名 (1年以上)	9
2-4. 滞在期間	10
2-5. 異文化体験の機会	11
2-6. 外国人との交流	11
2-7. 小括	13
第3章 異文化体験や交流で困ったことの経験 (ベントン)	14
3-1. 異文化体験や交流で困ったことの経験の有無	14
3-2. 国の文化の違いから生じた困った経験の発生場所	15
3-3. 直面した出来事の新しさ	15
3-4. 国の文化の違いから生じた困った出来事的具体例	16
3-5. 国の文化の違いから生じた困った出来事の影響	20
3-6. 小括	21
第4章 コンピテンシーの活用 (永井)	22
4-1. コンピテンシー活用：予想 (Q7. 国の文化の違いによる出来事に直面したことがない生徒の場合)	22
4-2. コンピテンシー活用：実際 (SQ6-2. 国の文化の違いによる出来事に直面したことがある生徒の場合)	24
4-3. 小括	25

第5章	クリティカルインシデントの構造と解決方法 (木野、椿)	28
	5-1. インタビューによるクリティカルインシデントの傾向	28
	5-2. アンケートによるクリティカルインシデントの傾向	31
	5-3. クリティカルインシデントの解決要因	34
	5-4. 小括	35
第6章	国際理解とグローバルマインドセット (宇佐美)	38
	6-1. 外国事情の説明力	38
	6-2. グローバルマインドセット (GMS)	39
	6-3. 小括	44
第7章	グローバルに活躍するために必要な能力—自由記述からの分析— (大川)	46
	7-1. 自由記述例	46
	7-2. 自由記述における層別の頻出ワード	47
	7-3. 各キーワードの文章内における関係性—共起ネットワーク図からの分析—	49
	7-4. 小括	53
第8章	PPDAC—科学的な問題解決方法— (渡辺・山本)	54
	8-1. 結果の概要	54
	8-2. 項目ごとの検討	54
	8-3. 現行学習指導要領の下での理数教育との関連について	58
	8-4. 小括	59

執筆者 (現職、あいうえお順)

筑波大学大学院人間総合科学研究科准教授	飯田 順子
筑波大学大学院人間総合科学研究科准教授	宇佐美 慧
筑波大学附属高等学校長・大学院人間総合科学研究科教授	大川 一郎
株式会社アルゴ取締役	川崎 将男
筑波大学大学院ビジネス科学研究科准教授	木野 泰伸
独立行政法人統計センター 理事長	椿 広計
筑波大学大学院ビジネス科学研究科教授	永井 裕久
筑波大学副学長・大学院ビジネス科学研究科教授	キャロラインF. ベントン
電気通信大学大学情報理工学研究科講師	山本 渉
慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授	渡辺 美智子

第1章 調査概要

1-1. はじめに

近年のクロスボーダー社会の一層の進展に伴い、次世代を担うグローバル人材の育成は、国際的に共通する重要かつ緊急な社会的課題といえる。これまでグローバル人材の育成対象は、主として多国籍企業等や国際機関における成人した有職社会人が中心であった。これは、拡大するグローバル化の社会的潮流の中で、直近の組織活動の運営に従事する人材が急速に必要とされてきたためである。

しかし、日本を含めたグローバル社会が、協働して持続可能な国際社会を形成していくためには、青年期のうちから系統的かつ継続的に次世代グローバル人材を育成することが重要といえる。とりわけ、生涯発達段階における青年期中期に位置する高校生は、アイデンティティの確立や自立に向けた心理的発達の中で、自分の職業観や適性を考え始める時期であり、この時期にグローバルな視野や国際的な対人関係、コミュニケーション能力を身に着けることは、将来、グローバル社会で活躍するために重要な基盤形成となるであろう。

したがって、グローバル環境の中で高校生が直面する異文化に起因する問題を「どのように認識し」、その状況を解決するために「どのような行動をとっているのか」、あるいは、「とれると考えているのか」を知ることは、今後、青年期の異文化対応に向けた意識面、行動面の学習モデルを構築するために有益な情報といえる。

本調査の目的は、SGHメンバー・アソシエイト校の高校生を対象としたインタビュー調査による定性分析、およびアンケート調査による定量分析を通して、青年期のグローバル意識形成の基盤となるグローバルマインドセット（国際的な知識や判断基準）、問題解決を促進するグローバルコンピテンシー（行動特性）および、問題解決の手順について明らかにすることである。

1-2. 調査方法

具体的な調査方法として、インタビュー調査については、平成26年度スーパーグローバルハイスクール指定校、およびアソシエイト校の中から、参加協力の事前照会にもとづき、学校別に高校1年生、2年生の一般生、帰国生を組み合わせた4名を調査対象とした。

訪問調査は、大学研究者および、調査員が二名一組で実施し、調査協力者となる高校生が直面した異文化遭遇に係るクリティカル・インシデント（危機的事例）について、半構造化質問を通して、その原因を明らかにするとともに、問題解決あるいは回避の方法に関するケース収集を行った。

アンケート調査については、平成26年度スーパーグローバルハイスクール指定校、およびアソシエイト校の中から、帰国生を含む高校1年生から3年生、各校20名を調査の基準単位とした。筑波大学のサーバー上に、Webアンケート調査サイトを開設し、調査協力者（対象となる高校生）が各自で調査サイトにアクセスし、事前配布の回答者向けIDとパスワードを用いてインタラクティブに回答するシステムを導入した。

いずれの調査項目についても、平成27年1月30日に筑波大学附属学校教育局の研究倫理審査を受審し、承認を得た。調査は完全匿名で行い、インタビュー調査開始時、アンケート調査初期画面において個人情報保護され、回答結果は研究者により厳重に管理され、個人名、学校名が公表されることが決してないことを明示し、個人情報の保護を厳守した。

1-3. アンケート調査の質問項目と実施

今回の質問項目の構成と項目数を図表1-1に示す（巻末に調査票を掲載）。多肢選択の質問については、回答必須の項目と、先行する質問への回答内容によって回答が必要になる項目とに分かれている。後者について、Q5「国の文化の違いから生じた、困った（困惑した）出来事に直面したことはありますか？」という、クリティカル・インシデント経験の有無を問う質問に対し、「ある」「ない」のどちらを選択するかにより、各々、Q6（状況と実際の対処行動）、Q7（予想される対処行動）のいずれかの質問項目に進む分岐点がある。

図表1-1 質問項目の構成と項目数

章	質問番号	質問内容	項目数	質問方法
1	Q1	個人属性	5	多肢選択
2	Q2	海外経験	4	多肢選択
2	Q3, Q4	異文化体験	8	多肢選択
3	Q5, Q6.a~b SQ6-1, SQ6-3~6-5	異文化体験や交流で困ったことの経験	7	多肢選択
4	SQ6-2, Q7	コンピテンシーの活用	各13	多肢選択
3, 5	Q6.c	クリティカルインシデントの構造と解決方法	1	自由記入
5	SQ6-6		1	多肢選択
6	Q8	国際理解	5	多肢選択
6	Q9	グローバルマインドセット	36	多肢選択
8	Q10	PPDAC－科学的な問題解決方法－	18	多肢選択
7	Q11	グローバルに活躍するために必要な能力	1	自由記入

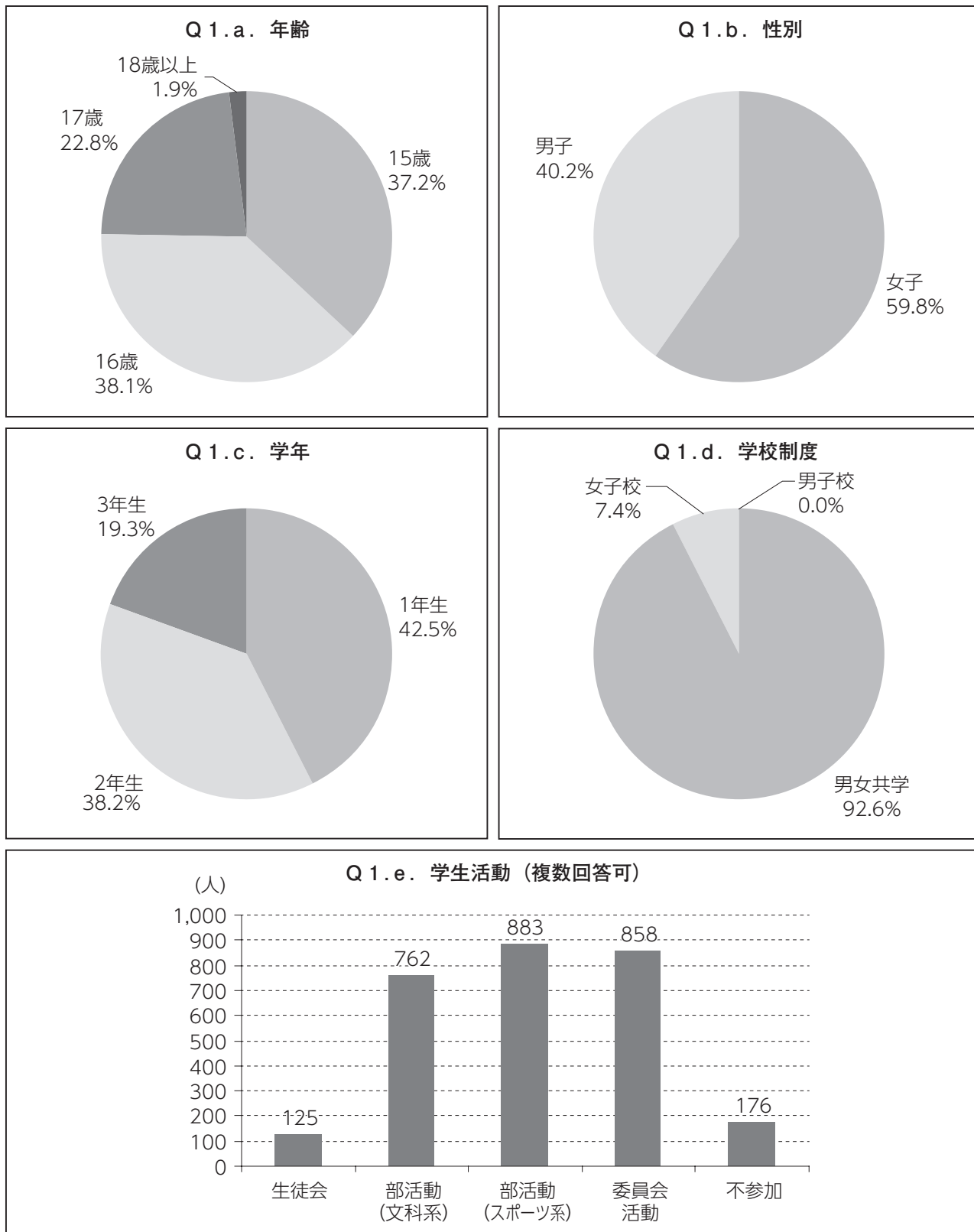
アンケート調査は平成27年4月24日（金）から5月16日（土）の間に実施し、全国73校の1,911名から有効回答を得た。1校あたりの平均回答者数は約26名であった。

回答に対して、主として、1-4節で述べる分析単位（学年×性別）を表側、質問毎の選択肢を表頭とする、クロス集計の手法で分析を実施した。他方、Q4、SQ6-2、Q7、Q8、Q9、Q10といった質問については、分析単位（学年×性別）毎の平均値と標準偏差という観点で分析を行った。

1-4. 調査回答の結果

調査回答について、図表1-2にQ1（個人属性）の分析結果を示す。

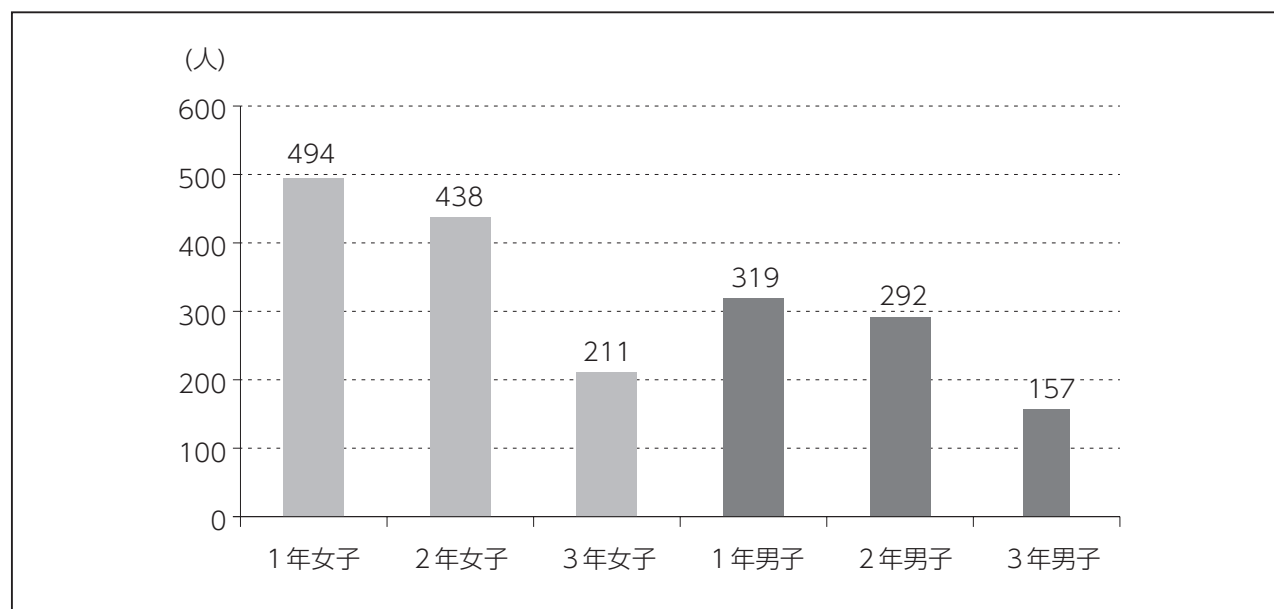
図表1-2 回答者の個人属性（Q1）



a. 年齢、c. 学年の円グラフにあるように、回答者構成として1年生(42.5%)がもっとも多く、2年生(38.2%)、3年生(19.3%)の順序であった。b. 性別については、女子(59.8%)の方が多く、男女比は約4対6であった。d. 学校制度については、男女共学制(92.6%)が大多数を占め、それ以外はほとんどが女子校(7.4%)であった。e. 学生活動(複数回答可)に関しては、「どの活動にも参加していない」生徒は176名(9%)に留まり、残り1,735名(91%)は、生徒会、部活動(文科系)、部活動(スポーツ系)、委員会活動のいずれかに参加していた。このように生徒は複数の活動に参加しており、1人当たりの参加活動数の平均は1.51であった。

以上、収集した個人属性データから、図表1-3に示す「学年×性別」を分析単位とし、Q2以降の分析を行った。

図表1-3 分析単位(学年×性別)



第2章 海外経験と異文化体験

2-1. 渡航経験

海外渡航経験について尋ねた結果、「ない」が849名で全体の44.5%となり、「ある」が1,061名で全体の55.5%となった。高校生全体では、海外渡航経験がある生徒がない生徒を上回ることが示された。高校1年次では「ない」と回答する生徒が半数以上であるのに対して、高校2年生・3年生になると「ある」と回答する生徒が増える傾向が男女ともにみられる。このことは、高校2年次・3年次に海外研修旅行を実施する学校が多く、それにより海外渡航を初めて経験している生徒も多く、そうした生徒にとって海外研修旅行は貴重な体験であることが示唆されている。

図表 2-1 海外渡航経験

		ない	ある	Total
1年女子	n	282	211	493
	構成比	57.2%	42.8%	100.0%
2年女子	n	144	294	438
	構成比	32.9%	67.1%	100.0%
3年女子	n	56	155	211
	構成比	26.5%	73.5%	100.0%
1年男子	n	214	105	319
	構成比	67.1%	32.9%	100.0%
2年男子	n	104	188	292
	構成比	35.6%	64.4%	100.0%
3年男子	n	49	108	157
	構成比	31.2%	68.8%	100.0%
Total	n	849	1,061	1,910
	構成比	44.5%	55.5%	100.0%

2-2. 渡航先国数

渡航先国数について尋ねた結果、1カ国が最も多く（405名）、3分の1以上の生徒がここに該当した（38.2%）。そこから、2カ国（220名、20.7%）、3カ国（150名、14.1%）、4カ国（89名、8.4%）、5カ国（62名、5.8%）と徐々に該当生徒が減少していく傾向がみられるが、特筆すべき点として、10カ国以上の渡航経験がある生徒が56名おり（全体の5.3%）、高校生の段階で多様な国際経験を有する生徒の存在もうかがえる。

図表 2-2 渡航先国数

		1カ国	2カ国	3カ国	4カ国	5カ国	6カ国	7カ国	8カ国	9カ国	10カ国以上	Total
1年女子	n	94	42	22	15	10	9	9	2	0	8	211
	構成比	44.5%	19.9%	10.4%	7.1%	4.7%	4.3%	4.3%	0.9%	0.0%	3.8%	100.0%
2年女子	n	112	67	53	18	10	6	5	3	2	18	294
	構成比	38.1%	22.8%	18.0%	6.1%	3.4%	2.0%	1.7%	1.0%	0.7%	6.1%	100.0%
3年女子	n	49	34	22	12	15	4	7	2	1	9	155
	構成比	31.6%	21.9%	14.2%	7.7%	9.7%	2.6%	4.5%	1.3%	0.6%	5.8%	100.0%
1年男子	n	53	16	10	9	5	3	3	1	2	3	105
	構成比	50.5%	15.2%	9.5%	8.6%	4.8%	2.9%	2.9%	1.0%	1.9%	2.9%	100.0%
2年男子	n	66	41	31	23	6	4	6	2	1	8	188
	構成比	35.1%	21.8%	16.5%	12.2%	3.2%	2.1%	3.2%	1.1%	0.5%	4.3%	100.0%
3年男子	n	31	20	12	12	16	6	0	1	0	10	108
	構成比	28.7%	18.5%	11.1%	11.1%	14.8%	5.6%	0.0%	0.9%	0.0%	9.3%	100.0%
Total	n	405	220	150	89	62	32	30	11	6	56	1,061
	構成比	38.2%	20.7%	14.1%	8.4%	5.8%	3.0%	2.8%	1.0%	0.6%	5.3%	100.0%

2-3. 国名（1年以上）

一年以上の外国での滞在経験を有する生徒に対して、一番長く滞在した国について尋ねた結果、アメリカ合衆国42名（30.2%）、中国22名（15.8%）、シンガポール10名（7.2%）と続いた。他には、香港（7名、5.0%）、ドイツ（6名、4.3%）、イギリス（6名、4.3%）、マレーシア（5名、3.6%）、台湾（5名、3.6%）、インドネシア（4名、2.9%）、フィリピン（4名、2.9%）、大韓民国（3名、2.2%）、アメリカンサモア（2名、1.4%）、オランダ（2名、1.4%）、タイ（2名、1.4%）、ベトナム（2名、1.4%）で複数の回答者が得られた。この結果からは、アメリカ合衆国の長期滞在が最も多く、アジア諸国、欧州諸国に長期滞在している生徒が多い傾向が示された。日本人駐在員の渡航先として少し前までは欧米諸国が中心であったが、現在はアジアの多様な国々やアフリカ諸国等にも家族を伴い長期滞在している様子が、この結果からうかがえる。

図表 2-3 一番長く滞在した国（1年以上の滞行者のみ）

	n	有効%	累積%		n	有効%	累積%
アメリカ合衆国	42	30.2%	30.2%	マレーシア	5	3.6%	70.5%
中国	22	15.8%	46.0%	台湾	5	3.6%	74.1%
シンガポール	10	7.2%	53.2%	インドネシア	4	2.9%	77.0%
香港	7	5.0%	58.3%	フィリピン	4	2.9%	79.9%
ドイツ	6	4.3%	62.6%	大韓民国	3	2.2%	82.0%
イギリス	6	4.3%	66.9%	アメリカンサモア	2	1.4%	83.5%

	n	有効%	累積%
オランダ	2	1.4%	84.9%
タイ	2	1.4%	86.3%
ベトナム	2	1.4%	87.8%
オーストラリア	1	0.7%	88.5%
オーストリア	1	0.7%	89.2%
ブラジル	1	0.7%	89.9%
カンボジア	1	0.7%	90.6%
チリ	1	0.7%	91.4%
フランス	1	0.7%	92.1%
ゲアム	1	0.7%	92.8%

	n	有効%	累積%
インド	1	0.7%	93.5%
モンゴル	1	0.7%	94.2%
ニュージーランド	1	0.7%	95.0%
パナマ	1	0.7%	95.7%
ロシア	1	0.7%	96.4%
セネガル	1	0.7%	97.1%
南アフリカ	1	0.7%	97.8%
スペイン	1	0.7%	98.6%
アラブ首長国連邦	1	0.7%	99.3%
合衆国領有小離島	1	0.7%	100.0%
Total	139	100.0%	

2-4. 滞在期間

海外での滞在期間について尋ねた結果、1週間から2週間未満が最も多く、376名が該当した(35.4%)。次に、1週間未満が続き、313名(29.5%)が該当した。続いて、2週間から1カ月未満が147名(13.9%)であった。これらの生徒を合わせると全体の78.8%となり、多くの生徒の滞在期間は1カ月未満であることが示された。一方で、滞在期間が5年以上という生徒が55名(5.2%)おり、長期の海外経験を有する生徒の存在も示された。

図表2-4 滞在期間(最長国)

		1週間未満	1週間~ 2週間未満	2週間~ 1ヶ月未満	1ヶ月~ 3ヶ月未満	3ヶ月~ 6ヶ月未満	6ヶ月~ 1年未満	1年~ 2年未満	2年~ 3年未満	3年~ 4年未満	4年~ 5年未満	5年以上	Total
1年 女子	n	78	70	22	5	0	3	2	3	5	8	15	211
	構成比	37.0%	33.2%	10.4%	2.4%	0.0%	1.4%	0.9%	1.4%	2.4%	3.8%	7.1%	100.0%
2年 女子	n	88	126	38	7	6	2	3	3	9	2	10	294
	構成比	29.9%	42.9%	12.9%	2.4%	2.0%	0.7%	1.0%	1.0%	3.1%	0.7%	3.4%	100.0%
3年 女子	n	40	32	34	8	3	16	5	3	3	3	8	155
	構成比	25.8%	20.6%	21.9%	5.2%	1.9%	10.3%	3.2%	1.9%	1.9%	1.9%	5.2%	100.0%
1年 男子	n	39	29	12	7	0	0	4	4	4	0	6	105
	構成比	37.1%	27.6%	11.4%	6.7%	0.0%	0.0%	3.8%	3.8%	3.8%	0.0%	5.7%	100.0%
2年 男子	n	44	90	24	6	1	3	4	4	5	2	5	188
	構成比	23.4%	47.9%	12.8%	3.2%	0.5%	1.6%	2.1%	2.1%	2.7%	1.1%	2.7%	100.0%
3年 男子	n	24	29	17	4	2	13	2	2	1	3	11	108
	構成比	22.2%	26.9%	15.7%	3.7%	1.9%	12.0%	1.9%	1.9%	0.9%	2.8%	10.2%	100.0%
Total	n	313	376	147	37	12	37	20	19	27	18	55	1,061
	構成比	29.5%	35.4%	13.9%	3.5%	1.1%	3.5%	1.9%	1.8%	2.5%	1.7%	5.2%	100.0%

2-5. 異文化体験の機会

異文化体験の機会について「1. 全くない」「2. 少ない」「3. どちらともいえない」「4. 多い」「5. かなり多い」の5件法で尋ねた結果、「少ない」と認識している生徒（602名、31.5%）と「多い」と認識している生徒（580名、30.4%）はほぼ同数であり、全体の60%を超えていた。次に、「どちらともいえない」に該当する生徒が466名（24.4%）であった。「全くない」と回答する生徒は79名（4.1%）であり、ほとんどの高校生がなんらかの異文化体験の機会を有していることが示されている。2-4の結果において、長期にわたる海外滞在経験を有する生徒が多い訳ではないことが示されていることから、今回のこの結果は国内で多様な異文化体験をしている可能性や短い滞在経験のなかでも豊かな体験ができており、そのことが生徒から「異文化体験」の機会を多く持っているとして認識されている可能性を示唆している。異文化体験の内容については、生徒の自由記述と合わせて分析することで、どのような体験が生徒から異文化体験ととらえられているのか詳細に分析する必要がある。

図表 2-5 異文化体験

		全く無い	少ない	どちらとも いえない	多い	かなり多い	Total
1年女子	n	27	180	130	120	36	493
	構成比	5.5%	36.5%	26.4%	24.3%	7.3%	100.0%
2年女子	n	8	103	105	179	43	438
	構成比	1.8%	23.5%	24.0%	40.9%	9.8%	100.0%
3年女子	n	1	53	50	78	29	211
	構成比	0.5%	25.1%	23.7%	37.0%	13.7%	100.0%
1年男子	n	24	133	87	61	14	319
	構成比	7.5%	41.7%	27.3%	19.1%	4.4%	100.0%
2年男子	n	13	86	65	94	34	292
	構成比	4.5%	29.5%	22.3%	32.2%	11.6%	100.0%
3年男子	n	6	47	29	48	27	157
	構成比	3.8%	29.9%	18.5%	30.6%	17.2%	100.0%
Total	n	79	602	466	580	183	1,910
	構成比	4.1%	31.5%	24.4%	30.4%	9.6%	100.0%

2-6. 外国人との交流

外国人との交流経験について「1. 全くあてはまらない」から「5. とてもよくあてはまる」の5件法で尋ねた結果、知識活用（M=4.68）、知識確認（M=4.70）、積極学習（M=4.89）、交流興味（M=4.75）の平均点はいずれも4.5を超えており高い一方で、非言語活用（M=3.81）、親和自信（M=3.64）、生活自信（M=4.00）の得点はいずれも4点以下と低い傾向が示された。このことは、知識を活用したり確認したり積極的に学習したり興味を感じるという経験は高い一方で、外国人との交流体

験のなかで非言語を活用したり、親和性を築くことや生活経験のなかで自信を感じることは少ないことが示された。

図表 2-6 外国人との交流

		n	平均	SD			n	平均	SD
a 知識活用	1年女子	493	4.77	1.12	e 交流興味	1年女子	493	4.90	1.20
	2年女子	438	4.88	1.12		2年女子	438	5.04	1.17
	3年女子	211	4.64	1.30		3年女子	211	4.81	1.38
	1年男子	319	4.44	1.34		1年男子	319	4.34	1.42
	2年男子	292	4.56	1.29		2年男子	292	4.49	1.40
	3年男子	157	4.59	1.38		3年男子	157	4.71	1.34
	Total	1,910	4.68	1.24		Total	1,910	4.75	1.32
b 知識確認	1年女子	493	4.78	1.11	f 親和自信	1年女子	493	3.64	1.36
	2年女子	438	4.85	1.09		2年女子	438	3.67	1.40
	3年女子	211	4.60	1.28		3年女子	211	3.69	1.49
	1年男子	319	4.50	1.31		1年男子	319	3.54	1.50
	2年男子	292	4.62	1.27		2年男子	292	3.59	1.48
	3年男子	157	4.71	1.34		3年男子	157	3.80	1.52
	Total	1,910	4.70	1.21		Total	1,910	3.64	1.44
c 積極学習	1年女子	493	5.04	1.12	g 生活自信	1年女子	493	4.06	1.37
	2年女子	438	5.21	1.08		2年女子	438	4.14	1.41
	3年女子	211	4.83	1.33		3年女子	211	4.00	1.43
	1年男子	319	4.55	1.35		1年男子	319	3.74	1.52
	2年男子	292	4.69	1.32		2年男子	292	3.97	1.38
	3年男子	157	4.75	1.31		3年男子	157	3.99	1.51
	Total	1,910	4.89	1.24		Total	1,910	4.00	1.43
d 非言語活用	1年女子	493	3.72	1.31					
	2年女子	438	3.94	1.29					
	3年女子	211	3.98	1.41					
	1年男子	319	3.64	1.39					
	2年男子	292	3.76	1.38					
	3年男子	157	3.92	1.47					
	Total	1,910	3.81	1.36					

2-7. 小括

- ・ 高校生段階では、海外渡航経験がある生徒がない生徒を上回る。高校2年次・3年次に行われる海外研修旅行で初めての海外渡航を経験する生徒も多い。
- ・ 渡航先国数は、1カ国の生徒が最も多く、2カ国以上経験している生徒の数は順次減少する。そのなかで、10カ国以上の経験をもつ生徒もいる。
- ・ 長期滞在した国について、アメリカ合衆国が第1位で、中国、シンガポール、香港、ドイツと続く。
- ・ 滞在期間については、第1位が1週間から2週間未満、第2位が1週間未満であり、この2つの群を合わせると50%を超える。一方、5年以上の滞在経験をもつ生徒もいる。
- ・ 異文化体験について、「少ない」「どちらともいえない」「多い」と回答する生徒が多く、「全くない」と回答する生徒は少ない。国内外で異文化体験をもてる機会が増えていることが示唆されている。
- ・ 外国人との交流経験について、知識活用、知識確認、積極学習、交流興味の得点が高いことに比べて、非言語活用、親和自信、生活自信の得点が低い傾向が示された。このことは、知識を活用したり確認したり積極的に学習したり興味を感じるという経験は高い一方で、外国人との交流体験のなかで非言語を活用したり、親和性を築くことや生活経験のなかで自信を感じる事が少ないことが示された。

第3章 異文化体験や交流で困ったことの経験

3-1. 異文化体験や交流で困ったことの経験の有無

(Q-5. 国の文化の違いから生じた、困った(困惑した)出来事に直面したことはありますか?)

国内外での異文化体験や交流では、たびたび文化や社会制度の違いによって経験したことの無い出来事に直面することがある。このような困惑した経験に直面したことがあるかないかをアンケートのQ5で聞いた。図表3-1のように4割近い(38.7%)生徒が国の文化の違いから生じた困った出来事を経験したことがあると答えた。

性別で比較すると、どの学年でも女子生徒の方が男子生徒に比べて異文化の違いから生じた困った経験をしたことがあると報告した(全体的に女子41.0%、男子35.3%)。また、学年で比較すると女子生徒も男子生徒も学年があるほどその経験する割合も増えた(1年女子29.8%、2年女子48.9%、3年女子51.2%、1年男子24.5%、2年男子39.0%、3年男子50.3%)。とりわけ、3年生では、困った経験した生徒は過半数を超えた。3年生になるとそれだけ異文化を経験し、それを振り返る機会があったことを示している。

図表3-1 文化の違いから生じた困った経験の有無

		困惑経験有無		合計
		ない	ある	
1年女子	n	347	147	494
	構成比	70.2%	29.8%	100.0%
2年女子	n	224	214	438
	構成比	51.1%	48.9%	100.0%
3年女子	n	103	108	211
	構成比	48.8%	51.2%	100.0%
女子小計	n	674	469	1,143
	構成比	59.0%	41.0%	100.0%
1年男子	n	241	78	319
	構成比	75.5%	24.5%	100.0%
2年男子	n	178	114	292
	構成比	61.0%	39.0%	100.0%
3年男子	n	78	79	157
	構成比	49.7%	50.3%	100.0%
男子小計	n	497	271	768
	構成比	64.7%	35.3%	100.0%
女子・男子合計	n	1,171	740	1,911
	構成比	61.3%	38.7%	100.0%

3-2. 国の文化の違いから生じた困った経験の発生場所

(Q6.a. その出来事は、どこで発生しましたか？ 国内、国外？)

上記で説明した国の文化の違いから生じた困った出来事を経験した740人の生徒にその発生場所が国内か海外かを聞いた。その結果、全体の約7割（69.5%）の生徒がその経験は海外で発生したと答えた。性別で比較すると特に目立った差はなかったが、学年別で見ると、学年があがるほど、その経験が国内より海外で発生した傾向がある。

図表3-2 文化の違いから生じた困った出来事の発生場所

		文化の違いから生じた困ったことの発生場所		合計
		国内	国外	
1年女子	n	53	94	147
	構成比	36.1%	63.9%	100.0%
2年女子	n	60	154	214
	構成比	28.0%	72.0%	100.0%
3年女子	n	21	87	108
	構成比	19.4%	80.6%	100.0%
女子小計	n	134	335	469
	構成比	28.6%	71.4%	100.0%
1年男子	n	42	36	78
	構成比	53.8%	46.2%	100.0%
2年男子	n	29	85	114
	構成比	25.4%	74.6%	100.0%
3年男子	n	21	58	79
	構成比	26.6%	73.4%	100.0%
男子小計	n	92	179	271
	構成比	33.9%	66.1%	100.0%
女子・男子合計	n	226	514	740
	構成比	30.5%	69.5%	100.0%

3-3. 直面した出来事の目新しさ

(SQ6-1. その出来事の目新しさを6段階で表すと、どのくらいでしたか？)

国の文化の違いから生じた困った出来事を経験したことのある生徒（女子生徒469人、男子生徒271人）に、その経験の目新しさを6段階表で聞いた（「1. 全く目新しくなかった」から「6. 非常に目新しかった」）。図表3-3が示すように、女子生徒と男子生徒の両方の大半が経験した出来事が目新しかったと報告した。その経験が「目新しかった」あるいは「非常に目新しかった」割合は50%を超えた。また、「どちらと言えば目新しかった」を加えるとその割合は75%を上回った。

図表 3-3 出来事の目新しさ

		国の文化の違いから生じた困った出来事の目新しさ						合計
		全く目新しくなかった	あまり目新しくなかった	どちらかと言えば目新しくなかった	どちらかと言えば目新しかった	目新しかった	非常に目新しかった	
		1	2	3	4	5	6	
1年女子	n	6	17	23	35	38	28	147
	構成比	4.1%	11.6%	15.6%	23.8%	25.9%	19.0%	100.0%
2年女子	n	6	14	21	59	67	47	214
	構成比	2.8%	6.5%	9.8%	27.6%	31.3%	22.0%	100.0%
3年女子	n	5	8	5	29	40	21	108
	構成比	4.6%	7.4%	4.6%	26.9%	37.0%	19.4%	100.0%
女子小計	n	17	39	49	123	145	96	469
	構成比	3.6%	8.3%	10.4%	26.2%	30.9%	20.5%	100.0%
1年男子	n	4	10	14	21	20	9	78
	構成比	5.1%	12.8%	17.9%	26.9%	25.6%	11.5%	100.0%
2年男子	n	4	6	9	26	43	26	114
	構成比	3.5%	5.3%	7.9%	22.8%	37.7%	22.8%	100.0%
3年男子	n	4	7	8	13	29	18	79
	構成比	5.1%	8.9%	10.1%	16.5%	36.7%	22.8%	100.0%
男子小計	n	12	23	31	60	92	53	271
	構成比	4.4%	8.5%	11.4%	22.1%	33.9%	19.6%	100.0%
女子・男子合計	n	29	62	80	183	237	149	740
	構成比	3.9%	8.4%	10.8%	24.7%	32.0%	20.1%	100.0%

3-4. 国の文化の違いから生じた困った出来事の詳細例

(Q6.c. その状況について簡単に説明してください (最大150文字/380words))

困った出来事を経験した生徒にその具体的な説明を自由回答式で聞いた。それぞれの回答を分析し、キーワードで大分類と其中的の小分類でグルーピングした。分析結果は図表 3-4 (女子) と図表 3-5 (男子) で示している通りである。

全体分析・女子生徒・男子生徒の比較分析

まず、女子生徒と男子生徒ともども、もっとも多く経験した困った出来事は1位「言葉の壁、ジェスチャーの違い」、2位「生活習慣の違い」と3位「文化・価値観の違い」によるものであった。とりわけ1位の「言葉の壁、ジェスチャーの違い」による困ったことを経験した学生が多く、女子生徒では38.8%、男子生徒では45.0%であった。異文化交流についてはコミュニケーションのトラブルが生徒にとって一番の問題のようである。自分が言いたい、伝えたいことがうまく通じない、また、相手が伝えようとしていることが分からなかったことで困惑したようである。

2位の「生活習慣の違い」による困ったことについては女子生徒の12.2%と男子生徒のその倍の25.5%が経験した。「生活習慣の違い」の大分類の中で生徒が一番経験した困った出来事は「食べ物が合わなかった」と「食文化の違い」によるものであった。「食べ物が合わなかった」小分類は、外国の食べ物そのものが口に合わなかったことで困ったことであり、「食文化の違い」小分類は食事のマナー、食器類の違い、レストランでのマナー、手で食事をする事、量が多い事こと、食事の時間帯の違いなどによる困った出来事であった。性別にみると、女子生徒はそれぞれ3.4%、2.5%、男子生徒はそれぞれ8.5%と2.6%が経験した。男子生徒の方が食べ物そのものについては、多少柔軟性にかけているようであった。その他、「生活習慣の違い」で困った出来事は、トイレや入浴のマナーや使い方及び人と人との間の距離が近いことがあげられた。人と人との距離については、男子生徒は特にハグ、キスやスキンシップに戸惑ったようである。

3位の「文化・価値観の違い」による困った出来事、どちらかと言うと有形的な違いである「生活習慣の違い」と異なり、考え方や思想の違いによる困った出来事のグルーピングである。女子生徒の5.6%と男子生徒の8.9%がこの分類の困ったことを経験した。特にマナー（列の順番を守らない、行儀が悪い、ゴミをちゃんと捨てないなど）や時間の感覚の違いが問題になった。

これら以外に注目すべき文化の違いから生じた困った出来事は「衛生状態が悪かった」、「宗教による違い」と「差別・いじめにあった」ことである。なお、宗教による食べ物の違いは、「宗教による違い」の大分類に仕分けた（例えばポークが食べられなかったなど）。

学年の比較分析

学年で比較すると目立つ違いは下記の二つである。

- ・ 1年生は特に言葉の壁・ジェスチャーの違いを経験した（女子40.8%、男子59.0%）。
- ・ 他の学年に比べ、3年生は文化・価値観の違いを経験した（女子19.4%、男子16.5%）。

1年生の多くが他の学年生より、言葉の壁・ジェスチャーの違いで困った経験をしたことは英語の修学年数の短さを考えれば、当たり前の結果であろう。3年生は他の学年生より文化・価値観の違いを感じたのは、このような無形的な違いを1、2年若い後輩より認識・リフレクトする力があったことを示しているだろう。

図表3-4 文化の違いから生じた困った出来事の詳細例（女子）

	1年女子 国内 n=53	1年女子 海外 n=94	小計 % n=147	2年女子 国内 n=60	2年女子 海外 n=154	小計 % n=214	3年女子 国内 n=21	3年女子 海外 n=87	小計 % n=108	女子 国内 n=134	女子 海外 n=335	女子 合計 n=469
1 言葉の壁・ジェスチャーの違い	33	27	40.8%	30	50	37.4%	11	31	38.9%	55.2%	32.2%	38.8%
2 生活習慣の違い	2	32	23.1%	9	72	37.9%	2	23	23.1%	9.7%	37.9%	12.2%
生活習慣の違い	0	4	2.7%	1	4	2.3%	0	2	1.9%	0.7%	3.0%	1.0%
食べ物が合わなかった	0	11	7.5%	0	23	10.7%	0	5	4.6%	0.0%	11.6%	3.4%
食文化の違い	0	8	5.4%	5	15	9.3%	0	1	0.9%	3.7%	7.2%	2.5%
トイレのマナー、様式の違い	0	2	1.4%	0	14	6.5%	1	6	6.5%	0.7%	6.6%	2.0%
入浴の仕方の違い	1	1	1.4%	0	6	2.8%	1	2	2.8%	1.5%	2.7%	1.0%
人と人の距離が近い・挨拶 (フレンドリー、ハグ・キス)	1	2	2.0%	1	2	1.4%	0	2	1.9%	1.5%	1.8%	0.7%
十分に水が使えなかった	0	2	1.4%	0	5	2.3%	0	2	1.9%	0.0%	2.7%	0.8%
土足で家に上がった	0	1	0.7%	1	2	1.4%	0	2	1.9%	0.7%	1.5%	0.5%
服装の違い	0	0	0.0%	1	1	0.9%	0	1	0.9%	0.7%	0.6%	0.3%
3 文化・価値観の違い	6	16	15.0%	7	14	9.8%	3	18	19.4%	11.9%	14.3%	5.6%
文化・価値観の違い	0	4	2.7%	0	6	2.8%	0	2	1.9%	0.0%	3.6%	1.0%
マナーの違い	4	6	6.8%	3	6	4.2%	2	0	1.9%	6.7%	3.6%	1.8%
時間に関する感覚の違い	1	2	2.0%	0	1	0.5%	0	11	10.2%	0.7%	4.2%	1.3%
はっきりとした意見が 求められた	1	2	2.0%	3	0	1.4%	0	2	1.9%	3.0%	1.2%	0.7%
相手国の方々が積極的	0	1	0.7%	1	1	0.9%	1	3	3.7%	1.5%	1.5%	0.6%
他人・警察に頼れなかった	0	1	0.7%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0.0%	0.3%	0.1%
議論の仕方の違い	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
4 宗教による違い	2	4	4.1%	3	3	2.8%	1	3	3.7%	4.5%	3.0%	1.4%
5 衛生状態が悪かった	0	3	2.0%	2	6	3.7%	1	2	2.8%	2.2%	3.3%	1.2%
6 差別・いじめにあった	0	1	0.7%	1	3	1.9%	0	4	3.7%	0.7%	2.4%	0.8%
7 同居者とのトラブル	0	2	1.4%	0	2	0.9%	0	5	4.6%	0.0%	2.7%	0.8%
ホストファミリー	0	2	1.4%	0	1	0.5%	0	4	3.7%	0.0%	2.1%	0.6%
ルームメイト	0	0	0.0%	0	1	0.5%	0	1	0.9%	0.0%	0.6%	0.2%
8 交通事情	1	4	3.4%	0	2	0.9%	0	1	0.9%	0.7%	2.1%	0.7%
交通事情が悪かった	0	2	1.4%	0	1	0.5%	0	0	0.0%	0.0%	0.9%	0.3%
迷子になった	0	2	1.4%	0	1	0.5%	0	0	0.0%	0.0%	0.9%	0.3%
交通手段が分からなかった	1	0	0.7%	0	0	0.0%	0	1	0.9%	0.7%	0.3%	0.2%
9 学校教育制度の違い	2	1	2.0%	2	1	1.4%	1	0	0.9%	3.7%	0.6%	0.6%
10 治安が悪かった・犯罪に あった	0	5	3.4%	0	1	0.5%	0	0	0.0%	0.0%	1.8%	0.5%
11 金の使い方が分からなかった /おつりの問題	0	2	1.4%	0	2	0.9%	0	1	0.9%	0.0%	1.5%	0.4%
12 押し売り、お金が要求された	0	2	1.4%	0	3	1.4%	0	0	0.0%	0.0%	1.5%	0.4%
13 顧客サービスが悪かった	0	1	0.7%	0	2	0.9%	0	0	0.0%	0.0%	0.9%	0.3%
14 日本の文化が説明できな かった	0	2	1.4%	0	1	0.5%	0	0	0.0%	0.0%	0.9%	0.3%
15 政治的意見を求められて 困った	0	1	0.7%	0	1	0.5%	1	0	0.9%	0.7%	0.6%	0.3%
16 ホテルの設備の損傷壊 (水回り、ロック)	0	1	0.7%	0	2	0.9%	0	0	0.0%	0.0%	0.9%	0.3%
17 その他	7	6	8.8%	8	14	10.3%	2	10	11.1%	12.7%	9.0%	4.1%

図表3-5 文化の違いから生じた困った出来事の実例 (男子)

	1年男子 国内 n=42	1年男子 海外 n=36	小計 % n=78	2年男子 国内 n=29	2年男子 海外 n=85	小計 % n=114	3年男子 国内 n=21	3年男子 海外 n=58	小計 % n=79	男子 国内 n=92	男子 海外 n=179	男子 合計 n=271
1 言葉の壁・ジェスチャーの違い	33	13	59.0%	13	29	36.8%	10	24	43.0%	60.9%	36.9%	45.0%
2 生活習慣の違い	4	18	28.2%	2	31	28.9%	2	12	17.7%	8.7%	34.1%	25.5%
生活習慣の違い	0	2	2.6%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0.0%	1.1%	0.7%
食べ物が合わなかった	0	4	5.1%	1	13	12.3%	1	4	6.3%	2.2%	11.7%	8.5%
食文化の違い	2	1	3.8%	0	1	0.9%	1	2	3.8%	3.3%	2.2%	2.6%
トイレのマナー、様式の違い	1	5	7.7%	1	4	4.4%	0	2	2.5%	2.2%	6.1%	4.8%
入浴の仕方の違い	0	1	1.3%	0	6	5.3%	0	1	1.3%	0.0%	4.5%	3.0%
人と人の距離が近い・挨拶(フレンドリー、ハグ・キス)	0	2	2.6%	0	3	2.6%	0	2	2.5%	0.0%	3.9%	2.6%
十分に水が使えなかった	0	1	1.3%	0	2	1.8%	0	1	1.3%	0.0%	2.2%	1.5%
土足で家に上がった	1	1	2.6%	0	1	0.9%	0	0	0.0%	1.1%	1.1%	1.1%
服装の違い	0	1	1.3%	0	1	0.9%	0	0	0.0%	0.0%	1.1%	0.7%
3 文化・価値観の違い	2	1	3.8%	6	2	7.0%	2	11	16.5%	10.9%	7.8%	8.9%
文化・価値観の違い	1	0	1.3%	3	0	2.6%	0	4	5.1%	4.3%	2.2%	3.0%
マナーの違い	1	0	1.3%	2	1	2.6%	1	2	3.8%	4.3%	1.7%	2.6%
時間に関する感覚の違い	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	3	3.8%	0.0%	1.7%	1.1%
はっきりとした意見が求められた	0	0	0.0%	0	1	0.9%	0	0	0.0%	0.0%	0.6%	0.4%
相手国の方々が積極的	0	0	0.0%	1	0	0.9%	1	1	2.5%	2.2%	0.6%	1.1%
他人・警察に頼れなかった	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	1	1.3%	0.0%	0.6%	0.4%
議論の仕方の違い	0	1	1.3%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0.0%	0.6%	0.4%
4 宗教による違い	1	1	2.6%	2	2	3.5%	1	0	1.3%	4.3%	1.7%	2.6%
5 衛生状態が悪かった	0	3	3.8%	1	4	4.4%	0	1	1.3%	1.1%	4.5%	3.3%
6 差別・いじめにあった	0	1	1.3%	0	1	0.9%	2	0	2.5%	2.2%	1.1%	1.5%
7 同居者とのトラブル	0	0	0.0%	0	2	1.8%	0	3	3.8%	0.0%	2.8%	1.8%
ホストファミリー	0	0	0.0%	0	2	1.8%	0	3	3.8%	0.0%	2.8%	1.8%
ルームメイト	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
8 交通事情	0	0	0.0%	0	3	2.6%	0	3	3.8%	0.0%	3.4%	2.2%
交通事情が悪かった	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
迷子になった	0	0	0.0%	0	1	0.9%	0	2	2.5%	0.0%	1.7%	1.1%
交通手段が分からなかった	0	0	0.0%	0	2	1.8%	0	1	1.3%	0.0%	1.7%	1.1%
9 学校教育制度の違い	0	0	0.0%	1	0	0.9%	10	1	13.9%	12.0%	0.6%	4.4%
10 治安が悪かった・犯罪にあった	0	0	0.0%	0	5	4.4%	0	2	2.5%	0.0%	3.9%	2.6%
11 金の使方が分からなかった/おつりの問題	0	0	0.0%	0	2	1.8%	0	1	1.3%	0.0%	1.7%	1.1%
12 押し売り、お金が要求された	0	0	0.0%	0	2	1.8%	0	3	3.8%	0.0%	2.8%	1.8%
13 顧客サービスが悪かった	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	1	1.3%	0.0%	0.6%	0.4%
14 日本の文化が説明できなかった	0	0	0.0%	1	1	1.8%	0	1	1.3%	1.1%	1.1%	1.1%
15 政治的意見を求められて困った	0	0	0.0%	0	1	0.9%	0	1	1.3%	0.0%	1.1%	0.7%
16 ホテルの設備の損傷壊(水回り、ロック)	0	0	0.0%	0	1	0.9%	0	0	0.0%	0.0%	0.6%	0.4%
17 その他	3	6	11.5%	5	4	7.9%	2	6	10.1%	10.9%	8.9%	9.6%

3-5. 国の文化の違いから生じた困った出来事の影響

(SQ 6-3. その出来事は、その国の文化に対する、あなたの考え方について影響を与えましたか？ SQ 6-4. その出来事後、あなたの異文化に対する考え方や行動はどのくらい変化しましたか？)

SQ 6-3. 困った出来事を経験した生徒に、その経験がその国の文化に対する考え方に影響したかを聞いた。性別の差はほとんどなく、7割（女性生徒72.1%、男子生徒72.3%）がその出来事の影響があったと答えた。学年の差もほとんど見られなかった。この結果は、異文化経験は生徒にとって重要な学習機会であることを確認できるものである。

図表 3-6 出来事その国の文化に対する考え方の影響

		文化の違いから生じた困った出来事の影響		合計
		ない	ある	
1年女子	n	47	100	147
	構成比	32.0%	68.0%	100.0%
2年女子	n	53	161	214
	構成比	24.8%	75.2%	100.0%
3年女子	n	31	77	108
	構成比	28.7%	71.3%	100.0%
女子小計	n	131	338	469
	構成比	27.9%	72.1%	100.0%
1年男子	n	29	49	78
	構成比	37.2%	62.8%	100.0%
2年男子	n	24	90	114
	構成比	21.1%	78.9%	100.0%
3年男子	n	22	57	79
	構成比	27.8%	72.2%	100.0%
男子小計	n	75	196	271
	構成比	27.7%	72.3%	100.0%
女子・男子合計	n	206	534	740
	構成比	27.8%	72.2%	100.0%

SQ 6-4 では、考え方が変わったと答えた534人の生徒に具体的にどのような変化があったかを質問した。結果は図表 3-7 に示している通りである。全体的にもっとも多く変わったのが「異文化理解の大切さを感じた（68.5%）」とそれについて「異文化関心が高まった（53.6%）」と「異文化への価値観が変わった（43.4%）」であった。行動の変化はそれらを下回る割合であった。目立った性別の違いはなかった。

図表 3-7 出来事の具体的な影響

		国の文化の違いから生じた困った出来事の影響					Total
		異文化理解の大切さ	異文化関心が高まった	異文化への価値観が変わった	行動が変容した	新しい行動形式がついた	
1年女子	n	71	58	36	44	29	100
	構成比	71.0%	58.0%	36.0%	44.0%	29.0%	—
2年女子	n	108	91	60	54	36	161
	構成比	67.1%	56.5%	37.7%	33.5%	22.4%	—
3年女子	n	58	36	39	36	21	77
	構成比	75.3%	46.8%	50.6%	46.8%	27.3%	—
女子小計	n	237	185	135	134	86	338
	構成比	70.1%	54.7%	39.9%	39.6%	25.4%	—
1年男子	n	32	26	22	15	13	49
	構成比	65.3%	53.1%	44.9%	30.6%	26.5%	—
2年男子	n	59	46	38	30	23	90
	構成比	65.6%	51.1%	42.2%	33.3%	25.6%	—
3年男子	n	38	29	37	29	28	57
	構成比	66.7%	50.9%	64.9%	50.9%	49.1%	—
男子小計	n	129	101	97	74	64	196
	構成比	65.8%	51.5%	49.5%	37.8%	32.7%	—
女子・男子合計	n	366	286	232	208	150	534
	構成比	68.5%	53.6%	43.4%	39.0%	28.1%	—

3-6. 小括

- ・国内外の異文化交流では、今まで経験したことのない困った出来事が頻繁に起こる。このような困った出来事を通じて、生徒の異文化に関する考え方が変わる。国際交流は生徒の学習機会であり、広い視野を身に着ける機会である。
- ・困った出来事のトップは「言葉の壁、ジェスチャーの違い」、「生活習慣の違い」と「文化・価値観の違い」であった。特に言葉の壁が問題になっている。やはり、外国語の単語や文章を覚えるだけでなく、それらを聞き取り、使えるコミュニケーション能力の育成が課題である。性別で比較すると、男子生徒の方が外国の食べ物に対する多少の抵抗感があるようである。
- ・女子生徒も男子生徒も「文化・価値観の違い」よりも日常的な「生活習慣の違い」による困惑した経験があった。しかし、3年生になると文化の違いの認識が増えた。大人になってくると異文化教育も重要になってくるといえる。
- ・性別、学年を問わず、困惑した経験は多くの生徒の異文化に対する考え方を変えた。行動まで変容した割合はそれを下回った。

第4章 コンピテンシーの活用

4-1. コンピテンシー活用：予想

(Q7. 国の文化の違いによる出来事に直面したことがない生徒の場合)

Q5で国の文化から生じた、困った(困惑した)出来事に直面したことが「ない」と回答した生徒たちに、「もし、あなたが国の文化の違いから生じる、困った(困惑した)出来事に直面したら、あなたは、どのくらい、以下に挙げる行動をとることができると思いますか?」(Q7)という質問に続き、以下a.-m.の13コンピテンシー(問題解決のための行動)を提示して、その行動がとれる「予測」について質問した。回答は、「1. 全くそうは思わない」から「6. 全くその通りだと思う」の6段階で、気持ちや考えにもっとも近い番号の選択をもとめた(図表4-1)。

分析の結果、13項目の全項目の平均点は4.45であった。平均点より高い項目平均は、b. 決定変更「必要ならば、最初に決めたことを変えるだろう」(4.59)、c. 価値尊重「自分と異なる立場の人の価値観を尊重するだろう」(4.66)、e. 複数選択「複数の選択肢を考えるだろう」(4.52)、f. 意見促進「相手が意見を述べやすいように心がけるだろう」(4.60)、g. 協力促進「相手との協力関係を築くようにするだろう」(4.81)、h. 反対傾聴「反対意見にも耳を傾けるだろう」(4.74)の6項目であった。

一方、平均点以下の項目は、a. 相手推察「相手が置かれた立場や気持ちを察するだろう」(4.44)、d. 複数視点「複数の視点から問題の原因を考えるだろう」(4.36)、i. 能力活用「自分の得意な能力を活かす行動をとるだろう」(4.35)、j. 意見説明「自分の意見を効果的に述べて相手に説明するだろう」(4.00)、k. 解決確認「解決が進んでいるか、途中で確認するだろう」(4.12)、l. 学習確認「今回の出来事から、学んだことを振り返るだろう」(4.38)、m. 熱意維持「解決に向けて強い熱意を持ち続けるだろう」(4.31)の7項目であった。

したがって、平均点の高い項目と低い項目を比較すると、国の文化の違いによる困った出来事に直面したことがない生徒の場合、「解決策立案」に関する点数は高く、相対的に「解決行動」にともなう進捗状況や解決後の点数は低い傾向がある。これは、実際の困った出来事を経験していないことから、解決策立案は予想できるが、行動については未知数の部分があることを示しているといえよう。

性別で比較すると、全体的に女子の方が男子に比べてコンピテンシー行動がとれると考えている得点が高く、とりわけa. 相手推察、f. 意見促進、g. 協力関係、h. 反対傾聴、l. 学習促進については、3学年を通して、女子の方が高い値を示していた。

学年で比較すると、高学年ほど得点が高まる傾向が見られるが、性別をクロスすると女子は、3年生の各項目の得点が高い傾向(1年生:1項目、2年生:4項目、3年生:8項目)であるのに対し、男子は、5項目(a. 相手推察、b. 決定変更、c. 価値尊重、d. 複数視点、e. 複数選択)について、1年生の得点が高い傾向が見受けられた(1年生:4項目、2年生:1項目、3年生:8項目)。

図表4-1 文化の違いから生じる出来事への対処行動：コンピテンシー
(Q7. 予想-SQ6-2. 実態)

		Q7. 予想			SQ6-2. 実態			予想-実態 差異
		n	平均	SD	n	平均	SD	
a 相手推察	1年女子	347	4.48	0.92	147	4.05	1.47	0.43
	2年女子	224	4.51	0.99	214	4.34	1.31	0.17
	3年女子	103	4.44	1.05	108	4.14	1.42	0.30
	1年男子	241	4.42	1.13	78	3.90	1.71	0.53
	2年男子	178	4.31	1.21	114	4.11	1.50	0.20
	3年男子	78	4.33	1.24	79	4.11	1.34	0.22
	Total	1,171	4.44	1.06	740	4.15	1.44	0.29
	b 決定変更	1年女子	347	4.57	0.95	147	3.68	1.62
2年女子		224	4.71	1.05	214	3.88	1.61	0.84
3年女子		103	4.74	0.97	108	3.94	1.55	0.80
1年男子		241	4.59	1.10	78	3.82	1.59	0.76
2年男子		178	4.47	1.19	114	3.86	1.62	0.61
3年男子		78	4.44	1.26	79	4.01	1.29	0.42
Total		1,171	4.59	1.07	740	3.85	1.57	0.74
c 価値尊重		1年女子	347	4.66	0.91	147	4.26	1.53
	2年女子	224	4.69	0.96	214	4.46	1.35	0.23
	3年女子	103	4.78	1.05	108	4.42	1.35	0.36
	1年男子	241	4.73	1.04	78	3.97	1.68	0.76
	2年男子	178	4.54	1.07	114	4.43	1.48	0.12
	3年男子	78	4.49	1.27	79	4.44	1.30	0.04
	Total	1,171	4.66	1.01	740	4.36	1.44	0.31
	d 複数視点	1年女子	347	4.23	1.01	147	3.94	1.49
2年女子		224	4.42	1.08	214	3.91	1.47	0.52
3年女子		103	4.49	1.13	108	4.11	1.52	0.37
1年男子		241	4.48	1.06	78	4.09	1.57	0.39
2年男子		178	4.31	1.23	114	4.13	1.39	0.18
3年男子		78	4.40	1.42	79	4.06	1.49	0.33
Total		1,171	4.36	1.11	740	4.01	1.48	0.35
e 複数選択		1年女子	347	4.48	0.90	147	3.99	1.55
	2年女子	224	4.60	0.97	214	3.93	1.41	0.67
	3年女子	103	4.65	1.08	108	4.00	1.45	0.65
	1年男子	241	4.51	1.04	78	3.65	1.67	0.86
	2年男子	178	4.40	1.21	114	3.99	1.51	0.41
	3年男子	78	4.58	1.28	79	4.08	1.37	0.50
	Total	1,171	4.52	1.04	740	3.95	1.48	0.57
	f 意見促進	1年女子	347	4.64	0.92	147	3.74	1.57
2年女子		224	4.77	1.01	214	3.85	1.50	0.92
3年女子		103	4.78	1.01	108	3.86	1.55	0.92
1年男子		241	4.52	1.13	78	3.77	1.58	0.75
2年男子		178	4.33	1.23	114	3.88	1.61	0.45
3年男子		78	4.56	1.34	79	3.87	1.32	0.69
Total		1,171	4.60	1.08	740	3.83	1.53	0.77
g 協力関係		1年女子	347	4.91	0.86	147	4.12	1.60
	2年女子	224	4.89	0.93	214	4.21	1.54	0.68
	3年女子	103	4.89	1.01	108	4.49	1.58	0.40
	1年男子	241	4.74	1.04	78	3.96	1.65	0.78
	2年男子	178	4.56	1.15	114	4.18	1.61	0.38
	3年男子	78	4.81	1.12	79	4.29	1.49	0.52
	Total	1,171	4.81	1.00	740	4.21	1.58	0.60

		Q 7. 予想			SQ 6-2. 実態			予想-実態 差異
		n	平均	SD	n	平均	SD	
h 反対傾聴	1年女子	347	4.82	0.94	147	3.65	1.66	1.17
	2年女子	224	4.86	0.88	214	3.64	1.60	1.21
	3年女子	103	4.84	1.00	108	3.86	1.63	0.98
	1年男子	241	4.62	1.06	78	3.31	1.75	1.31
	2年男子	178	4.58	1.15	114	3.76	1.62	0.82
	3年男子	78	4.71	1.15	79	3.97	1.48	0.73
	Total	1,171	4.74	1.01	740	3.70	1.63	1.05
i 能力活用	1年女子	347	4.39	1.05	147	3.62	1.61	0.77
	2年女子	224	4.40	1.04	214	3.76	1.63	0.64
	3年女子	103	4.36	1.18	108	3.81	1.58	0.55
	1年男子	241	4.35	1.19	78	3.71	1.66	0.65
	2年男子	178	4.19	1.29	114	3.81	1.65	0.38
	3年男子	78	4.42	1.33	79	3.80	1.60	0.63
	Total	1,171	4.35	1.15	740	3.74	1.62	0.61
j 意見説明	1年女子	347	3.95	1.01	147	3.48	1.55	0.46
	2年女子	224	4.00	1.04	214	3.49	1.60	0.52
	3年女子	103	4.02	1.23	108	3.67	1.62	0.35
	1年男子	241	4.03	1.21	78	3.67	1.75	0.37
	2年男子	178	4.01	1.25	114	3.69	1.67	0.31
	3年男子	78	4.09	1.34	79	3.63	1.57	0.46
	Total	1,171	4.00	1.14	740	3.58	1.61	0.42
k 解決確認	1年女子	347	4.01	1.03	147	3.41	1.48	0.60
	2年女子	224	4.15	1.08	214	3.49	1.59	0.66
	3年女子	103	4.32	1.22	108	3.63	1.62	0.69
	1年男子	241	4.10	1.16	78	3.82	1.60	0.27
	2年男子	178	4.21	1.13	114	3.59	1.68	0.63
	3年男子	78	4.05	1.39	79	3.84	1.44	0.22
	Total	1,171	4.12	1.13	740	3.58	1.58	0.53
l 学習確認	1年女子	347	4.38	1.09	147	4.31	1.54	0.07
	2年女子	224	4.52	1.13	214	4.47	1.45	0.05
	3年女子	103	4.60	1.22	108	4.23	1.60	0.37
	1年男子	241	4.21	1.18	78	4.41	1.46	-0.20
	2年男子	178	4.25	1.23	114	4.49	1.45	-0.24
	3年男子	78	4.45	1.28	79	4.68	1.29	-0.23
	Total	1,171	4.38	1.17	740	4.42	1.48	-0.05
m 熱意維持	1年女子	347	4.30	1.07	147	3.90	1.59	0.40
	2年女子	224	4.42	1.12	214	4.04	1.66	0.38
	3年女子	103	4.39	1.20	108	4.26	1.64	0.13
	1年男子	241	4.32	1.21	78	4.01	1.62	0.30
	2年男子	178	4.12	1.27	114	4.04	1.54	0.08
	3年男子	78	4.37	1.34	79	4.08	1.50	0.30
	Total	1,171	4.31	1.17	740	4.05	1.60	0.27

4-2. コンピテンシー活用：実際

(SQ 6-2. 国の文化の違いによる出来事に直面したことがある生徒の場合)

Q 5で国の文化から生じた、困った(困惑した)出来事に直面したことが「ある」と回答した生徒たちに、「その出来事の解決に関して、以下のような行動をどのくらいとりましたか?」(SQ 6-2)という質問に続き、Q 7と同じ質問をした。

出来事に直面したことが「ない」生徒と「ある」生徒を比較すると、1. 学習確認（平均-.05）を除く全ての項目について、文化の違いから生じる困った出来事に直面したことが「ない」生徒の方が、「ある」生徒に比べて、対処行動がとることができると考えている。とりわけ、h. 反対傾聴「反対意見にも耳を傾ける。」という項目に関しては1ポイント以上の乖離が見られる。この結果は、コンピテンシー行動がとれると思っけていても、実際に困った出来事に直面すると、行動の困難性を感じる可能性を示唆しているといえよう。

困った出来事を経験している生徒の全項目の平均点(3.96)より高い項目平均は、a. 相手推察「相手が置かれた立場や気持ちを察する」(4.15)、c. 価値尊重「自分と異なる立場の人の価値観を尊重する」(4.36)、d. 複数視点「複数の視点から問題の原因を考える」(4.01)、g. 協力関係「相手との協力関係を築くようにする」(4.21)、1. 学習確認「今回の出来事から、学んだことを振り返る」(4.42)、m. 熱意維持「解決に向けて強い熱意を持ち続ける」(4.05)の6項目であった。

一方、平均点より低い項目は、b. 決定変更「必要ならば、最初に決めたことを変える」(3.85)、e. 複数選択「複数の選択肢を考える」(3.95)、f. 意見促進「相手が意見を述べやすいように心がける」(3.83)、h. 反対傾聴「反対意見にも耳を傾ける」(3.70)、i. 能力活用「自分の得意な能力を活かす行動をとる」(3.74)、j. 意見説明「自分の意見を効果的に述べて相手に説明する」(3.58)、k. 解決確認「解決が進んでいるか、途中で確認する」(3.58)であった。

また、困った出来事に直面したことが「ある」生徒たちは、「ない」生徒たちに比べて、a. 相手推察、d. 複数視点、1. 学習確認、m. 熱意維持という項目について、同じ「ある」生徒たちのグループ内の平均値が全体的に高い傾向が見られた。とりわけ「ない」生徒たちのグループに比べて、行動開始後の1. 学習確認、m. 熱意維持に関するコンピテンシーが比較的高いことは注目に値する。

性別で比較すると、3学年を通して、女子の方が男子に比べて高い項目は、a. 相手推察、g. 協力関係の2項目であり、逆に、男子の方が高い項目は、f. 意見促進、k. 解決確認の2項目であった。この結果から、困った出来事を経験しているグループでは、男子のより積極的な解決行動の傾向が見られる。

学年間で比較すると、高学年ほど得点が高まる傾向が見られ、性別とクロスさせても、各項目の得点が一番高い学年の項目は、女子の場合（1年生：0項目、2年生：3項目、3年生：10項目）、男子の場合（1年生：0項目、2年生：5項目、3年生：8項目）であり、性別によらず、高学年ほどコンピテンシー行動がとれる傾向が見られた。

4-3. 小括

- ・国の文化の違いによる出来事に直面したことが「ない」生徒たちは、「ある」生徒たちに比べ、解決に向けたコンピテンシー行動がとれると考えている。
- ・「ない」生徒たちは、「解決策立案」に関するコンピテンシーの方が、「解決行動」に関するコンピテンシーよりも実行できると考える高い傾向が見られた。これに対し、「ある」生徒たちは、1. 「今回の出来事から、学んだことを振り返るだろう。」、m. 「解決に向けて強い熱意を持ち続けるだろう。」といった、行動開始後のコンピテンシーについても実行することができると考えている。

- ・性別で比較すると、「ない」生徒たちは、女子の方が男子に比べてコンピテンシー行動をとれると考える傾向が強いが、「ある」生徒たちでは、男子の方が女子に比べて実際のコンピテンシー行動を発揮できると考えている。
- ・学年間で比較すると、「ない」生徒たち、「ある」生徒たちともに、高学年ほどコンピテンシー行動をとれると考えている。また、性別をクロスさせると、「ない」生徒たちは、女子は全体と同じ傾向を表しているが、男子は、1年生の方が2年生よりも実行できると考えているコンピテンシーもある。しかし、「ある」生徒たちは、性別に関係なく、高学年ほどコンピテンシー行動がとれると考えている。

第5章 クリティカルインシデントの構造と解決方法

本章では、高校生はどのような出来事をクリティカルインシデントとして認識しているかを確認し、その解決にどのような要素が有効であるかを検討する。

5-1. インタビューによるクリティカルインシデントの傾向

はじめに、インタビュー調査で出てきたクリティカルインシデントについて、その傾向を確認する。インタビューによるクリティカルインシデントの分析は、女子、男子の層、または、帰国生、一般生という層を用いて行った。ここで帰国生とは、海外に長期滞在し、生活をした経験を持つ学生で、一般生は、そのような経験を持たない学生である。旅行や短期の留学、ホームステイ経験などを有する学生は、一般生の区分になっている。また、インタビューは、1、2年生を対象としているが、学年についての記録はないため、学年による層別は行っていない。

分析に用いたのは、インタビューで発言された内容を、インタビュアー（質問者）がテキスト情報として書き起こした文章である。文字データの場合は、分析方法として、文章を読み、意味を解釈することが一般的であるが、本章では、書き起こされた文章を入力データとして、KH Coder¹と呼ばれるツールを用いてキーワードを抽出し、共起ネットワーク図を作成した。

抽出されたキーワードを図表5-1に整理する。キーワード抽出は、品詞別に集計されている。本稿では、意味的に重要と思われる、名詞、サ変名詞、動詞について、上位から10件を掲載した。なお、キーワードの出現は同数の場合もある。特に、キーワードの出現回数が少ない場合は、同数になるケースが存在する。例えば、上位8件目から15件目までのキーワードがそれぞれ2回ずつ出現しているような場合は、8件目から15件目まで、同一順位となる。一方で、キーワードの出現頻度が小さい場合は、キーワードとしての意味が小さいことから、今回は、同数となるケースにおいても、ツールが表示した順に機械的に上から10件を掲載した。

¹ 樋口耕一，社会調査のための計量テキスト分析，ナカニシヤ出版，2014.

図表 5-1 女子、男子、および、帰国生、一般生の層別による頻出キーワード

女子

名 詞		サ変名詞		動 詞	
自分	103	授業	38	思う	165
学校	77	話	23	言う	106
英語	70	勉強	22	行く	93
日本人	67	意見	20	困る	53
先生	42	一緒	14	違う	52
感じ	40	意識	12	帰る	46
友達	40	差別	11	感じる	44
向こう	39	生活	11	聞く	42
海外	30	関係	9	話す	30
日本語	27	質問	9	考える	28

男子

名 詞		サ変名詞		動 詞	
英語	60	授業	28	思う	98
学校	53	一緒	13	言う	58
自分	53	意見	12	行く	47
日本人	42	生活	12	違う	42
友達	29	ホームステイ	11	感じる	34
最初	25	関係	11	困る	31
外国	24	話	11	話す	25
感じ	24	会話	10	帰る	22
先生	24	びっくり	9	聞く	19
海外	22	勉強	8	来る	17

帰国生

名 詞		サ変名詞		動 詞	
自分	104	授業	51	思う	128
英語	93	意見	22	言う	93
学校	91	勉強	22	行く	73
友達	60	生活	18	違う	56
日本人	56	テスト	13	帰る	54
感じ	46	一緒	13	感じる	46
先生	45	関係	13	困る	43
向こう	37	びっくり	12	聞く	26
最初	33	会話	11	話す	26
周り	28	差別	11	話せる	24

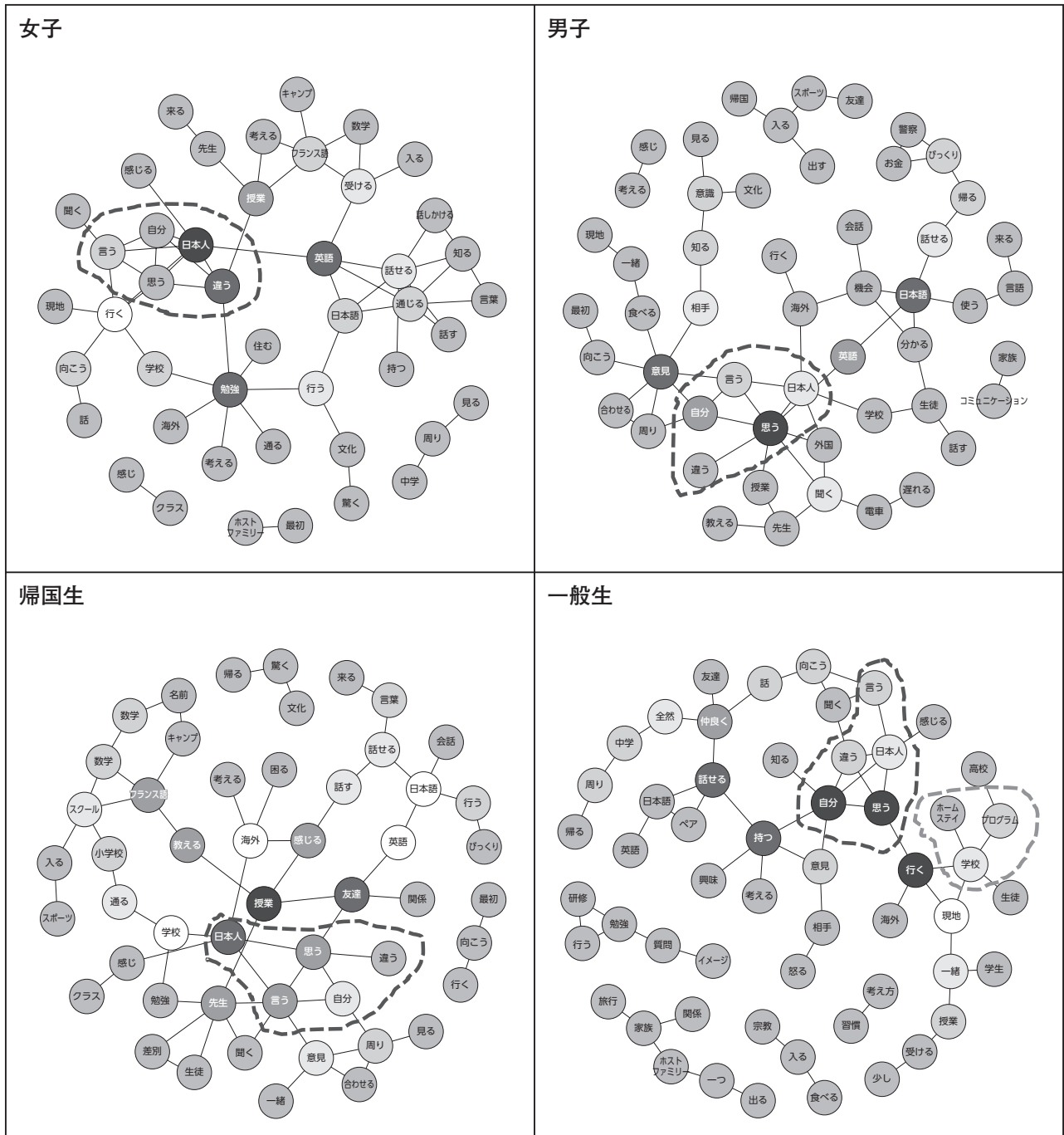
一般生

名 詞		サ変名詞		動 詞	
自分	60	話	36	思う	156
日本人	56	授業	23	行く	77
学校	42	一緒	18	言う	73
海外	40	意見	16	違う	45
英語	39	プログラム	13	困る	44
外国	39	ホームステイ	13	感じる	40
向こう	24	経験	10	聞く	36
感じ	22	質問	10	話す	33
現地	21	意識	9	考える	27
先生	21	研修	9	持つ	24

抽出されたキーワードから分かることとして、いずれの層においても、名詞として、「自分」「英語」「学校」が頻出キーワードとして抽出されており、動詞には、「思う」「行く」「言う」「困る」「違う」などが上位を占めている。また、サ変名詞には、「授業」「意見」「一緒」が登場している。このことから、クリティカルインシデントは、主に、学校における授業や学習において発生していることをうかがわせる。なお、女子、男子、または、帰国性、一般生といった層間における顕著な差は見られなかった。ただし、一般生のキーワードには、帰国生には出てこない「ホームステイ」「プログラム」が登場する一方で、帰国生と一般生における名詞や動詞のキーワードの傾向が似ていることから、一般生においても、ホームステイを経験することで、現地で生活してきた帰国生と、似た体験を得ている可能性がうかがえる。

次に、共起ネットワーク（図表 5-2）を作成した。共起ネットワークは、各キーワードの文章内における関係性を図式化したものである。なお、共起ネットワークは、キーワード間のつながりを示すものであり、図中の上下左右などの配置場所は意味を持たない。また、作図時の設定の違いで図の形や配置が変化するため、あくまでも大まかな傾向をつかむための参考資料として見ていただきたい。なお、図中の太い点線は、図を見やすくするために筆者が入れた補助線であり、厳密な意味を持ったものではないため、参考として見ていただきたい。

図表5-2 女子、男子、および、帰国生、一般生の層別による共起ネットワーク



共起ネットワークでは、女子、男子、また、帰国生、一般生のいずれにおいても、「自分」「思う」「言う」「違う」「日本人」といったキーワードが関連を持ち、一つの塊になっていることがわかる。このことから、日本人としての自分と何か違うことをクリティカルインシデントとして認識していると想像できる。なお、一般生において、「ホームステイ」「プログラム」が「学校」というキーワードとかたまりを作っていることが特徴の一つである。このことは、キーワードのところでも述べたが、ホームステイにてクリティカルインシデントを経験していることをうかがわせる。

5-2. アンケートによるクリティカルインシデントの傾向

アンケートにおいても、自由記入で記述されたクリティカルインシデント(Q6)の分析を行った。アンケートの分析においては、性別と学年による層別に加え、海外渡航経験の有無による層別を実施した。なお、この分析においては、アンケートの全回答者の中から、クリティカルインシデントに関する自由記入をした回答者のみが分析対象となっている。図表5-3では、性別と学年で層別されたデータによる頻出キーワードを10件ずつを示している。

図表5-3 性別および学年の層別による抽出された頻出キーワード

女子 (全体)

名 詞	サ変名詞	動 詞
英語	83	ホームステイ 39 思う 55
自分	54	会話 27 食べる 52
言葉	44	食事 21 言う 45
外国	41	授業 20 困る 40
文化	41	生活 20 違う 38
学校	34	理解 18 行く 38
日本人	27	シャワー 15 通じる 35
相手	26	説明 15 聞く 32
トイレ	25	留学 13 伝える 31
友達	25	交流 12 伝わる 29

男子 (全体)

名 詞	サ変名詞	動 詞
英語	57	食事 12 通じる 29
自分	38	苦労 10 聞く 26
言葉	25	話 10 困る 24
外国	24	ホームステイ 9 言う 22
文化	22	会話 8 思う 21
現地	20	観光 8 知る 20
学校	19	説明 8 食べる 19
相手	19	理解 8 伝える 19
トイレ	16	シャワー 7 来る 17
海外	14	関係 7 行く 16

女子 1年

名 詞	サ変名詞	動 詞
英語	25	ホームステイ 9 行く 17
自分	15	食事 7 違う 16
外国	14	シャワー 6 食べる 14
学校	12	交流 6 思う 13
言葉	12	授業 6 通じる 11
文化	12	会話 5 聞く 11
タクシー	7	生活 5 言う 10
日本人	7	活動 4 困る 10
友達	7	観光 4 伝える 9
コミュニケーション	6	注文 4 使う 8

男子 1年

名 詞	サ変名詞	動 詞
英語	16	関係 4 通じる 13
外国	15	生活 4 思う 8
言葉	11	説明 4 伝える 8
トイレ	9	道案内 3 聞く 8
自分	8	チェック 2 言う 7
文化	8	ホームステイ 2 食べる 7
相手	6	意思 2 知る 7
ドイツ語	4	意味 2 困る 6
海外	4	観光 2 伝わる 6
英単語	3	仕事 2 違う 5

女子 2年

名 詞	サ変名詞	動 詞
英語	42	ホームステイ 19 食べる 33
自分	25	会話 13 言う 28
外国	24	食事 11 思う 26
言葉	23	理解 11 困る 21
文化	23	生活 10 違う 19
トイレ	18	説明 9 通じる 18
相手	16	意見 8 行く 17
現地	15	発音 8 入る 16
海外	13	ホスト 7 聞く 15
日本人	12	一緒 7 合う 13

男子 2年

名 詞	サ変名詞	動 詞
英語	24	話 7 通じる 13
自分	13	会話 6 言う 10
学校	9	食事 5 聞く 10
現地	8	理解 5 行く 9
言葉	8	料理 5 困る 9
食べ物	8	シャワー 4 入る 9
コミュニケーション	7	ホームステイ 4 違う 8
風呂	7	苦労 4 合う 7
海外	6	交流 4 使う 7
言語	6	学習 3 知る 7

共起ネットワークを見ると、女子、男子ともに共通なことは、「ホームステイ」と「生活」もしくは「食べる」といったキーワードが一つのグループを形成していることである。また、それらは、「文化」とネットワークがつながっていることから、ホームステイを通じて、食、生活、そして文化を感じていることがわかる。また、「自分」「伝える」という言葉に着目すると、女子、男子ともに、学校や現地でコミュニケーションを取ろうとしている様子がうかがえる。

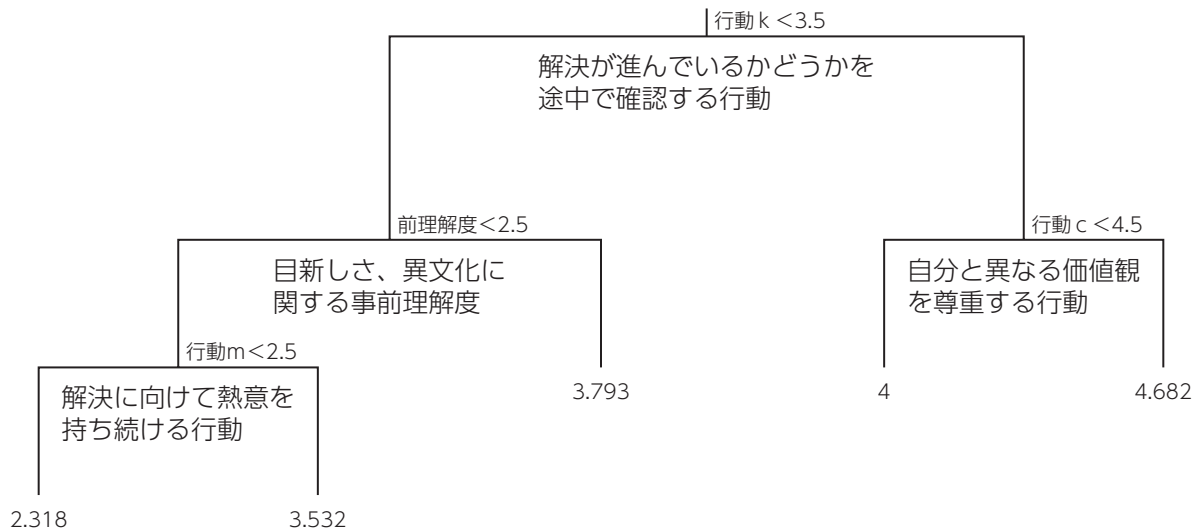
次に、海外経験あり、なしによる層別の分析を行った。図表5-5に頻出キーワードを示す。

図表5-5 海外経験あり、なしの層別による頻出キーワード

海外経験あり					海外経験なし						
名詞		サ変名詞		動詞	名詞		サ変名詞		動詞		
英語	135	ホームステイ	46	思う	75	外国	10	交流	3	伝わる	6
自分	90	会話	35	食べる	71	言葉	7	あいさつ	2	通じる	5
文化	63	食事	31	言う	67	英語	5	ホームステイ	2	伝える	5
言葉	62	授業	26	困る	63	キャラクター	2	一緒	2	来る	5
外国	55	理解	26	通じる	59	コミュニケーション	2	観光	2	話しかける	5
学校	51	生活	25	聞く	54	ジェスチャー	2	食事	2	違う	4
相手	43	シャワー	22	行く	52	英会話	2	生活	2	答える	4
トイレ	41	説明	22	違う	49	海外	2	案内	1	聞く	4
現地	39	話	21	伝える	45	学校	2	意思	1	行う	2
日本人	34	留学	20	使う	38	機会	2	活動	1	行く	2

先に、海外経験なしの層を確認する。海外経験なしの層では、サ変名詞に、「交流」、動詞に、「伝わる」「通じる」「伝える」といったコミュニケーションに関するキーワードが上位に来ている。一方、海外経験ありの層では、動詞として、「思う」「食べる」「困る」などが、「通じる」「伝える」よりも上位に来ている。このことから、コミュニケーションのみならず生活面でのクリティカルインシデントが多くなっていると考えられる。次に共起ネットワークを確認する。

図表 5-7 課題解決水準に影響を与える行動とインシデント特性



総合的に最も解決レベルの向上に効いていると考えられるのは、「解決が進んでいるかどうかを途中で確認する行動」となることが分かった。この確認行動について、どちらかと言えば行った、行った、非常によく行った者の中で、更に「自分と異なる立場の人の価値観尊重」を行ったあるいは非常に良く行った者の解決レベルが更に高くなることも分かった。なお、この「解決が進んでいるかどうかの確認行動」に次いで効果的と推論されたのは、「解決に向けて強い熱意をもち続ける行動」であった。

異文化の事前理解が低く、この種の行動ができない場合には、解決レベルの平均は、どちらかと言えば低いというものになる。ただし、そのような状況でも解決に向けての熱意が有る行動を少なくとも行っていれば、若干解決レベル平均は向上すると考えられる。

5-4. 小括

- ・クリティカルインシデントは、「伝える」「伝わる」といったコミュニケーションに関する事柄、食やシャワーなど日常生活に関する事柄において発生している。
- ・クリティカルインシデントの発生場所として、学校生活や、ホームステイ先での生活が多い。
- ・海外での生活経験のある帰国生では、クリティカルインシデントの発生源として、学校生活における違いの比重が大きいと思われる。
- ・海外での長期的な生活経験のない一般生においても、ホームステイの経験により、帰国生と似たクリティカルインシデントを経験していると推察できる。
- ・海外経験がない学生においても、海外からの留学生を通じて、クリティカルインシデントを体験している。
- ・「困る」というキーワードは、学年が上がるにしたがって頻出頻度が増すことから、学年が上がるに従って、クリティカルインシデントの困難度が増しているのではないかと考えられる。ただし、詳細については、今後、さらなる分析が必要である。

- ・3年生では、「留学」というキーワードが登場する。
- ・クリティカルインシデントの解決に向けては、「解決が進んでいるかどうかを途中で確認する行動」が最も影響を与えていることが分かった。それ以外にも、「解決に向けて強い熱意を持ち続ける行動」「自分と異なる価値観を尊重する行動」が大切であることが分かった。

第6章 国際理解とグローバルマインドセット

6-1. 外国事情の説明力

Q8では、生徒たちに、「政治」・「経済」・「貧困問題」・「歴史」・「宗教」の観点別に、外国のどこか一つの国について、どのくらい詳しく説明することができるかどうかを「1. 全くできない」から「6. 非常にできる」の6段階で尋ねた。計の結果、平均点が低い観点が「政治」・「経済」であり、それに対して「貧困問題」や「歴史」・「宗教」は、歴史や公民科目における直接的な学習成果を反映しているのか、相対的に平均点が高い傾向にあった。しかし、観点別の差は必ずしも大きくなく、いずれの観点においても、「説明ができる」と回答している生徒もいればそうでない生徒も一定数いるため、個人差の影響が大きいことが推察される。

また、興味深いのは、比較的平均値が低い「政治」・「経済」であっても、関連する科目の勉強を通して、学年を経るごとに平均値が高くなっていることである。それに対して、貧困問題や宗教など、個々の科目の中で比較的断片的に扱われると考えられる観点については、学年間の違いが小さい。これらの観点では、単に学校の勉強のみならず、友人や親子関係などの社会関係、および各生徒のもつ経験や興味の違いに応じて評価点の個人差が生じているものと推察される。

図表6-1 Q8（国際理解）の学年別・男女別の集計結果

		Q8. 国際理解					Q8. 国際理解		
		n	平均	SD			n	平均	SD
a 政治	1年女子	494	2.28	1.14	d 歴史	1年女子	494	3.01	1.33
	2年女子	438	2.47	1.18		2年女子	438	3.19	1.33
	3年女子	210	2.54	1.21		3年女子	210	3.09	1.31
	1年男子	319	2.56	1.30		1年男子	319	3.21	1.41
	2年男子	292	2.92	1.29		2年男子	292	3.29	1.38
	3年男子	157	3.00	1.43		3年男子	157	3.40	1.40
	Total	1,910	2.56	1.25		Total	1,910	3.17	1.36
	b 経済	1年女子	494	2.31		1.17	e 宗教	1年女子	494
2年女子		438	2.57	1.19	2年女子	438		3.05	1.28
3年女子		210	2.53	1.22	3年女子	210		3.01	1.30
1年男子		319	2.66	1.32	1年男子	319		3.03	1.38
2年男子		292	3.00	1.34	2年男子	292		3.09	1.36
3年男子		157	3.10	1.47	3年男子	157		3.08	1.51
Total		1,910	2.62	1.28	Total	1,910		3.04	1.34
c 貧困問題		1年女子	494	2.97	1.32				
	2年女子	438	3.27	1.32					
	3年女子	210	3.09	1.32					
	1年男子	319	3.00	1.35					
	2年男子	292	3.24	1.39					
	3年男子	157	3.19	1.39					
	Total	1,910	3.12	1.35					

6-2. グローバルマインドセット (GMS)

国際社会を生きる上での総合的な素養であるグローバルマインドセットを評価する目的で、Q9では生徒たちに、「Ⅰ：国際的な知識・情報（6項目）、：自国の歴史・文化に関して外国人に外国語で伝えられる）・「Ⅱ：自分自身について（9項目）、例：外国で生活してみたい）・「Ⅲ：社会との関わりについて(10項目)、例：分からないことがあれば、積極的に他の人に質問をする事ができる）・「Ⅳ：将来について(11項目)、例：将来は国際的なリーダーとして活躍し、自国と世界の発展に貢献したい」の4つの観点別に、「1. 全くあてはまらない」から「6. とてもあてはまる」の6段階の自己評価で尋ねた。

因子分析と呼ばれる統計的分析の結果、計（6 + 9 + 10 + 11）= 36個の項目について、上の4つの概念的な区分とは別に、他文化や自己への理解を意味する「F1：他文化理解・自己理解」、海外での生活や外国人との交流経験を希望する「F2：海外志向」、社会的場面・対人場面における行動力・議論力である「F3：対人関係」、国際情報の受信と発信力・興味全般を意味する「F4：国際情報」、海外への留学・就職や国際的なリーダーとして活躍する意欲である、「F5：進路選択」・自分自身への全般的な自信を指す「F6：自己効力感」、の計6つのカテゴリ（因子と呼ぶ）に統計的に分類できることが見出された。以下の表は、この6つの分類カテゴリをベースとして、カテゴリ別にそれぞれ含まれる項目への回答の集計結果を示している。

図表6-2 Q9 (GMS) の他文化理解・自己理解因子に関する学年別・男女別の集計結果

			Q9. グローバルマインドセット (F1) 他文化理解・自己理解因子						Q9. グローバルマインドセット (F1) 他文化理解・自己理解因子		
			n	平均	SD				n	平均	SD
Ⅱ f	1年女子	1年女子	494	4.90	1.12	Ⅲ c	1年女子	1年女子	494	5.07	1.02
		2年女子	438	4.94	1.10			2年女子	438	5.25	0.90
		3年女子	211	4.82	1.28			3年女子	211	5.06	1.04
		1年男子	319	4.50	1.35			1年男子	319	4.75	1.25
		2年男子	292	4.62	1.23			2年男子	292	4.85	1.10
		3年男子	157	4.57	1.30			3年男子	157	4.90	1.15
		Total	1,911	4.76	1.22			Total	1,911	5.01	1.07
	Ⅲ a	1年女子	1年女子	494	4.87		1.14	Ⅲ d	1年女子	1年女子	494
2年女子			438	5.13	0.97	2年女子	438			5.11	0.94
3年女子			211	4.97	1.17	3年女子	211			5.03	1.01
1年男子			319	4.52	1.23	1年男子	319			4.60	1.16
2年男子			292	4.69	1.16	2年男子	292			4.73	1.11
3年男子			157	4.78	1.10	3年男子	157			4.73	1.13
Total			1,911	4.85	1.14	Total	1,911			4.88	1.05
Ⅲ b		1年女子	1年女子	494	5.29	0.87	Ⅳ a		1年女子	1年女子	494
	2年女子		438	5.40	0.85	2年女子		438		5.16	0.99
	3年女子		211	5.36	0.92	3年女子		211		5.03	1.04
	1年男子		319	4.94	1.18	1年男子		319		4.83	1.25
	2年男子		292	5.09	1.09	2年男子		292		4.76	1.16
	3年男子		157	5.20	1.13	3年男子		157		4.95	1.11
	Total		1,911	5.23	1.00	Total		1,911		5.01	1.10

		Q 9. グローバルマインドセット (F 1) 他文化理解・自己理解因子					Q 9. グローバルマインドセット (F 1) 他文化理解・自己理解因子		
		n	平均	SD			n	平均	SD
IV b	1年女子	494	5.37	0.92	IV g	1年女子	494	5.32	0.96
	2年女子	438	5.39	0.87		2年女子	438	5.45	0.87
	3年女子	211	5.27	0.98		3年女子	211	5.39	0.91
	1年男子	319	5.13	1.11		1年男子	319	5.03	1.23
	2年男子	292	5.03	1.12		2年男子	292	5.12	1.08
	3年男子	157	5.13	0.99		3年男子	157	5.27	1.06
	Total	1,911	5.25	1.00		Total	1,911	5.28	1.02
IV f	1年女子	494	5.11	1.08	IV j	1年女子	494	4.78	1.24
	2年女子	438	5.15	1.01		2年女子	438	4.80	1.24
	3年女子	211	5.10	1.05		3年女子	211	4.73	1.40
	1年男子	319	4.86	1.26		1年男子	319	4.67	1.39
	2年男子	292	4.84	1.16		2年男子	292	4.64	1.30
	3年男子	157	5.01	1.13		3年男子	157	4.81	1.30
	Total	1,911	5.03	1.12		Total	1,911	4.74	1.30

「F 1：他文化理解・自己理解」については、なかには差が見られない項目もあるが、平均的には学年によらず女子の方が男子よりも値が高い傾向にあり、このカテゴリに関わる理解度は女子の方が進んでいることが見てとれる。次に、「F 2：海外志向」については、「F 1：他文化理解・自己理解」よりも顕著な男女差が見てとれ、学年によらず女子の方が男子よりも高い傾向にあることは興味深い。なお、平均的にやや2年生の方が他学年よりも値が高い傾向にあるが、これはサンプルの変動による誤差の範囲であると考えられる。また、「F 3：対人関係」でも若干の性差はあるが、特に三年生の方に注目すれば、男子の方が却って高い値を示している項目も見受けられる。女子においては顕著な学年差が見られないが、男子の方は三年生において全般的に平均値がやや高くなるという点は興味深い。

図表 6-3 Q 9 (GMS) の海外志向因子に関する学年別・男女別の集計結果

		Q 9. グローバルマインドセット (F 2) 海外志向因子					Q 9. グローバルマインドセット (F 2) 海外志向因子		
		n	平均	SD			n	平均	SD
II a	1年女子	494	5.29	1.19	II b	1年女子	494	5.26	1.13
	2年女子	438	5.47	0.95		2年女子	438	5.44	0.88
	3年女子	211	5.25	1.33		3年女子	211	5.29	1.14
	1年男子	319	4.84	1.57		1年男子	319	4.77	1.41
	2年男子	292	5.14	1.29		2年男子	292	5.00	1.26
	3年男子	157	5.05	1.41		3年男子	157	5.01	1.34
	Total	1,911	5.21	1.28		Total	1,911	5.16	1.19

		Q 9. グローバルマインドセット (F 2) 海外志向因子		
		n	平均	SD
II c	1年女子	494	4.69	1.51
	2年女子	438	5.01	1.32
	3年女子	211	4.71	1.53
	1年男子	319	4.27	1.70
	2年男子	292	4.65	1.56
	3年男子	157	4.44	1.67
	Total	1,911	4.67	1.54
II d	1年女子	494	5.06	1.25
	2年女子	438	5.21	1.09
	3年女子	211	5.04	1.35
	1年男子	319	4.52	1.53
	2年男子	292	4.78	1.39
	3年男子	157	4.81	1.44
	Total	1,911	4.94	1.34

		Q 9. グローバルマインドセット (F 2) 海外志向因子		
		n	平均	SD
II e	1年女子	494	4.84	1.22
	2年女子	438	4.93	1.16
	3年女子	211	4.75	1.35
	1年男子	319	4.50	1.38
	2年男子	292	4.59	1.24
	3年男子	157	4.64	1.36
	Total	1,911	4.74	1.28

図表 6-4 Q 9 (GMS) の対人関係因子に関する学年別・男女別の集計結果

		Q 9. グローバルマインドセット (F 3) 対人関係因子		
		n	平均	SD
III e	1年女子	494	4.30	1.17
	2年女子	438	4.35	1.16
	3年女子	211	4.35	1.29
	1年男子	319	4.15	1.31
	2年男子	292	4.13	1.29
	3年男子	157	4.39	1.29
	Total	1,911	4.27	1.24
III f	1年女子	494	4.02	1.40
	2年女子	438	4.05	1.38
	3年女子	211	4.11	1.44
	1年男子	319	3.82	1.55
	2年男子	292	3.80	1.49
	3年男子	157	4.05	1.46
	Total	1,911	3.97	1.45
III g	1年女子	494	4.19	1.31
	2年女子	438	4.13	1.25
	3年女子	211	4.21	1.32
	1年男子	319	4.07	1.42
	2年男子	292	3.97	1.34
	3年男子	157	4.21	1.37
	Total	1,911	4.13	1.33

		Q 9. グローバルマインドセット (F 3) 対人関係因子		
		n	平均	SD
III h	1年女子	494	3.89	1.40
	2年女子	438	4.00	1.35
	3年女子	211	4.01	1.41
	1年男子	319	3.92	1.47
	2年男子	292	3.85	1.45
	3年男子	157	4.20	1.33
	Total	1,911	3.95	1.41
III i	1年女子	494	3.62	1.45
	2年女子	438	3.65	1.38
	3年女子	211	3.67	1.50
	1年男子	319	3.66	1.48
	2年男子	292	3.63	1.41
	3年男子	157	3.82	1.40
	Total	1,911	3.66	1.44
III j	1年女子	494	4.56	1.11
	2年女子	438	4.59	1.04
	3年女子	211	4.61	1.12
	1年男子	319	4.30	1.29
	2年男子	292	4.41	1.16
	3年男子	157	4.44	1.21
	Total	1,911	4.50	1.15

「F 4：国際情報」については顕著な男女差が見られない一方で、特に男子において、学年を経るごとに平均値が高くなる傾向は興味深く、これは学校の勉強を通して各生徒の自信がより高まって

いった傾向を反映している可能性がある。「F5：進路選択」については、多くの項目において、男女限らず、2年生以降で得点が上昇する傾向があり、受験を意識する前およびその最中で進路選択への意識がより明確化することが関係していると思われる。加えて、項目によっては多少の性差があり、女子生徒の方が値が高い項目がある。

図表6-5 Q9（GMS）の国際情報因子に関する学年別・男女別の集計結果

			Q9. グローバルマインドセット (F4) 国際情報因子						Q9. グローバルマインドセット (F4) 国際情報因子		
			n	平均	SD				n	平均	SD
I a	1年女子	1年女子	494	3.45	1.34	I d	1年女子	1年女子	494	3.36	1.12
		2年女子	438	3.61	1.32			2年女子	438	3.60	1.14
		3年女子	211	3.36	1.34			3年女子	211	3.56	1.23
		1年男子	319	3.34	1.41			1年男子	319	3.40	1.26
		2年男子	292	3.44	1.35			2年男子	292	3.63	1.19
		3年男子	157	3.61	1.47			3年男子	157	3.78	1.37
		Total	1,911	3.47	1.36			Total	1,911	3.52	1.20
I b	1年女子	1年女子	494	3.78	1.14	I e	1年女子	1年女子	494	3.14	1.28
		2年女子	438	4.00	1.17			2年女子	438	3.39	1.27
		3年女子	211	3.85	1.28			3年女子	211	3.42	1.42
		1年男子	319	3.76	1.26			1年男子	319	3.03	1.34
		2年男子	292	3.87	1.21			2年男子	292	3.24	1.35
		3年男子	157	4.04	1.39			3年男子	157	3.40	1.53
		Total	1,911	3.87	1.22			Total	1,911	3.25	1.34
I c	1年女子	1年女子	494	3.63	1.09	I f	1年女子	1年女子	494	2.54	1.13
		2年女子	438	3.80	1.09			2年女子	438	2.74	1.20
		3年女子	211	3.73	1.20			3年女子	211	2.86	1.31
		1年男子	319	3.68	1.22			1年男子	319	2.70	1.27
		2年男子	292	3.86	1.20			2年男子	292	2.87	1.28
		3年男子	157	3.93	1.32			3年男子	157	2.96	1.43
		Total	1,911	3.75	1.16			Total	1,911	2.73	1.25

図表6-6 Q9（GMS）の進路選択因子に関する学年別・男女別の集計結果

			Q9. グローバルマインドセット (F5) 進路選択因子						Q9. グローバルマインドセット (F5) 進路選択因子		
			n	平均	SD				n	平均	SD
IV c	1年女子	1年女子	494	4.10	1.52	IV d	1年女子	1年女子	494	4.07	1.45
		2年女子	438	4.43	1.53			2年女子	438	4.48	1.41
		3年女子	211	4.27	1.60			3年女子	211	4.25	1.49
		1年男子	319	3.91	1.60			1年男子	319	3.71	1.48
		2年男子	292	4.38	1.43			2年男子	292	3.93	1.45
		3年男子	157	4.36	1.60			3年男子	157	3.99	1.50
		Total	1,911	4.23	1.55			Total	1,911	4.09	1.47

		Q 9. グローバルマインドセット (F 5) 進路選択因子					Q 9. グローバルマインドセット (F 5) 進路選択因子		
		n	平均	SD			n	平均	SD
IV e	1年女子	494	3.59	1.64	IV i	1年女子	494	4.21	1.40
	2年女子	438	3.95	1.66		2年女子	438	4.52	1.33
	3年女子	211	3.80	1.76		3年女子	211	4.39	1.44
	1年男子	319	3.33	1.51		1年男子	319	4.14	1.48
	2年男子	292	3.88	1.54		2年男子	292	4.43	1.39
	3年男子	157	3.85	1.67		3年男子	157	4.45	1.35
	Total	1,911	3.72	1.64		Total	1,911	4.35	1.40
IV h	1年女子	494	3.68	1.49	IV k	1年女子	494	4.40	1.32
	2年女子	438	3.86	1.46		2年女子	438	4.52	1.29
	3年女子	211	3.83	1.54		3年女子	211	4.45	1.41
	1年男子	319	3.61	1.51		1年男子	319	4.23	1.45
	2年男子	292	4.01	1.44		2年男子	292	4.47	1.34
	3年男子	157	3.99	1.50		3年男子	157	4.45	1.37
	Total	1,911	3.80	1.49		Total	1,911	4.42	1.35

最後に、「F 6：自己効力感」に関しては、全体として唯一、男子生徒の方が女子生徒よりも高い値を示す傾向が見てとれ、また若干ではあるが学年を経るにつれてその傾向がより顕著であることが分かる。

図表 6-7 Q 9 (GMS) の自己効力感因子に関する学年別・男女別の集計結果

		Q 9. グローバルマインドセット (F 6) 自己効力感因子					Q 9. グローバルマインドセット (F 6) 自己効力感因子		
		n	平均	SD			n	平均	SD
II g	1年女子	494	3.22	1.39	II i	1年女子	494	3.67	1.30
	2年女子	438	3.26	1.36		2年女子	438	3.74	1.24
	3年女子	211	3.42	1.50		3年女子	211	3.71	1.47
	1年男子	319	3.47	1.51		1年男子	319	3.89	1.40
	2年男子	292	3.55	1.46		2年男子	292	3.82	1.42
	3年男子	157	3.69	1.46		3年男子	157	4.17	1.35
	Total	1,911	3.38	1.44		Total	1,911	3.79	1.35
II h	1年女子	494	3.54	1.42					
	2年女子	438	3.53	1.39					
	3年女子	211	3.69	1.48					
	1年男子	319	3.71	1.54					
	2年男子	292	3.79	1.50					
	3年男子	157	3.84	1.50					
	Total	1,911	3.64	1.46					

6-3. 小括

- ・国際的な知識に関しては、「政治」・「経済」に対し、「貧困問題」や「歴史」・「宗教」の方が、歴史や公民科目における直接的な学習成果を反映しているのか、同一の学年で見ても、相対的に自信をもっている生徒が多いが、一方で評価点の個人差も大きい。一方、「政治」・「経済」では、学年を経るごとに平均値が高くなる傾向にある。
- ・グローバルマインドセットにおける「F 1：他文化理解・自己理解」については、差が見られない項目もあるが、平均的には学年によらず女子の方が男子よりも高い傾向にある。「F 2：海外志向」についてはより顕著な男女差が見てとれ、学年によらず女子の方が男子よりも高い傾向にある。「F 3：対人関係」でも若干の性差はあるが、特に三年生の方に注目すれば、男子の方が却って高い値を示している項目も見受けられる。一方、女子においては顕著な学年差が見られなかった。
- ・「F 4：国際情報」については顕著な男女差が見られない一方で、特に男子において、学年を経るごとに平均値が高くなる傾向は興味深く、これは学校の勉強を通して生徒の自信がより高まっている傾向を反映している可能性がある。「F 5：進路選択」については、多くの項目において、男女限らず、2年生以降になって得点が上昇する傾向にあった。最後に、「F 6：自己効力感」に関しては、全体として唯一、男子生徒の方が女子生徒よりも高い値を示す傾向が見てとれ、また若干ではあるが学年を経るにつれてその傾向がより顕著であった。

第7章 グローバルに活躍するために必要な能力 —自由記述からの分析—

7-1. 自由記述例

質問紙のなかで、「将来、グローバルに活躍するために、どのような能力が必要だと思いますか？また、その能力を獲得するためには、どのような教育を受けたいと思いますか？」ということ的自由に書いてもらう自由記述の欄が設けてある。例えば、そこには下記のような記述がなされている。データベースの反応例を示す。

図表 7-1 自由記述例

僕はイギリスに7か月間留学していました。その中で特に思ったことは、やはり言語です。なぜなら、言語はやはり意思疎通の重大なツールであり、相手が理解できる言語で話せば相手は頭で理解してくれます。でも相手の国や話す言語で話せば、相手は心で理解してくれると思うからです。
〈3年・男子・渡航経験有〉

自分の物の見方の尺度では測れないこともあるので、その国の現状をちゃんと見定めて相手の国に合わせるのが大事。あと、発展途上国とかの場合、人助けだけじゃ、人は救えない。それでは、長続きしないので、金もうけとはいかないまでも、お金を取ることは大事。献身的なものだけでは長続きしない。献身的なものだとそれが、「私は金をもらってないのに、人を助けてる」みたいなかんで自己満足につながってしまう可能性がある。

まず、自分の物の見方を広げる教育を受けたい。ほかの国には、きっと自分の国の常識じゃ押し量れないこともあると思うので、そういう教育を受けたい。
〈3年・女子・渡航経験有〉

英語力が一番必要だと感じました。高校生活の中でも英語でのプレゼンテーション、英語での外国人との会話はする機会が意外に多くコミュニケーションに困る場面がいくつかありました。現在の社会では日本人は英語が下手だという意見をよく聞きます。それは国内の意見だけではなく国外からも批判を受けているようです。基礎能力を身につけるためにはやはり幼少の頃から正しい英語を指導する必要があると思います。この問題をどうにかしない限りグローバル社会において日本は置いてけぼりになることは明確です。
〈3年・男子・渡航経験無〉

日本は外国に関する一般的な知識や情報があまり行き交ってないので、ある国に対して固定的で狭いイメージを持ちやすいと思う。なので、文化交流をして、他国の現状や事情を理解する能力が必要になってくると思う。色々な外国人と接することがもし出来れば、一概に「この国はこういう人が住んでいて、こういう考え方しか出来ないのだ。」ということは言えなくなってくると思う。様々な国に対して、謙虚で広い心を持つことができるだろう。
〈3年・女子・渡航経験無〉

図表7-1は、記述の多い反応についてランダムに選択したものであるが、学年、性、渡航経験の有無を問わず、「言語（英語）力」「コミュニケーション」「柔軟な視点」の重要性について触れられている。

自由記述について、層別（学年、性、渡航経験、困惑経験）に概観したが、一見しての違いは感じとれなかった。

7-2. 自由記述における層別の頻出ワード

自由記述の文章を入力データとして、KH Coderと呼ばれるツールを用いて、各生徒における自由記述の反応を機械的に単語に分解し、「名詞」「形容詞」「副詞」「動詞」等、単語の種別にその頻度を算出していった。

図表には、意味的に重要と思われる、「名詞」「サ変名詞」「形容動詞」「動詞」に関して、性別、海外経験の有無の各層における上位10位までの頻出ワードを示す

図表7-2 女子の頻出ワード

名詞		サ変名詞		形容動詞		動詞	
能力	906	教育	397	必要	629	思う	1,290
英語	756	意見	313	大切	160	受ける	246
コミュニケーション	516	授業	287	様々	103	考える	209
自分	512	理解	217	いろいろ	65	話す	178
外国	315	交流	125	グローバル	62	伝える	173
文化	290	活躍	110	さまざま	48	持つ	167
相手	222	会話	85	重要	39	知る	164
積極	208	獲得	76	柔軟	36	学ぶ	145
機会	190	尊重	56	大事	34	話せる	139
言語	148	勉強	55	適切	17	増やす	73

図表7-3 男子の頻出ワード

名詞		サ変名詞		形容動詞		動詞	
能力	569	教育	293	必要	400	思う	661
英語	478	授業	138	大切	72	考える	134
自分	280	理解	128	様々	62	受ける	117
コミュニケーション	267	意見	117	グローバル	54	話す	108
外国	221	活躍	86	重要	50	学ぶ	96
文化	210	交流	67	大事	39	持つ	90
言語	124	会話	61	さまざま	33	知る	89
積極	114	獲得	51	いろいろ	26	話せる	67
相手	101	解決	44	柔軟	18	伝える	61
世界	100	学習	40	不可欠	17	行う	37

図表7-4 渡航経験有の頻出キーワード

名詞		サ変名詞		形容動詞		動詞	
能力	846	教育	393	必要	597	思う	1,162
英語	675	意見	285	大切	158	考える	232
自分	533	授業	250	様々	107	受ける	198
コミュニケーション	426	理解	224	グローバル	80	持つ	185
文化	308	活躍	133	重要	59	話す	155
外国	248	交流	122	さまざま	56	知る	153
相手	209	獲得	72	いろいろ	54	学ぶ	143
言語	191	解決	71	大事	46	伝える	142
積極	180	会話	69	柔軟	38	話せる	105
世界	172	尊重	55	不可欠	20	行く	60

図表7-5 渡航経験無の頻出キーワード

名詞		サ変名詞		形容動詞		動詞	
能力	629	教育	297	必要	432	思う	789
英語	558	授業	175	大切	74	受ける	165
コミュニケーション	357	意見	145	様々	58	話す	131
外国	288	理解	120	いろいろ	37	考える	111
自分	259	会話	77	グローバル	36	話せる	101
文化	191	交流	70	重要	30	知る	100
積極	142	活躍	63	大事	27	学ぶ	98
相手	114	獲得	55	さまざま	25	伝える	92
機会	109	学習	39	柔軟	16	持つ	72
海外	83	勉強	37	適切	14	使う	46

男子、女子、渡航経験有、渡航経験無の4つの群において、名詞では、ベスト5に、「能力」「英語」「コミュニケーション」「自分」の4つの言葉が共通して上がってきている。サ変名詞では、「教育」はいずれの群でも突出して頻度が高く、「授業」「理解」「意見」の3つのキーワードは、順位は違うものの共通した言葉として上がってきている。形容動詞では、「必要」「大切」「重要」という言葉と、「様々」「いろいろ」という言葉、そして、「グローバル」という言葉が共通して上がってきている。動詞では、「思う」「考える」「受ける」「話す」という言葉が上がってきている。

このように各群ともに、上位に上がってきている言葉は、ほとんどが共通しており、頻出ワードを見る限りにおいては、群ごとの特徴を見出すことは難しい。

上記のキーワードが多く含まれている自由記述として、図表7-6のような反応が挙げられる。

図表 7-6 頻出ワードを含んだ反応例

英語でのコミュニケーション力や自分の意見を積極的に述べる能力、他人と意見を共有し、議論する能力が必要だと思う。そのために、海外研修を通して現地の人とコミュニケーションをとったり、普段の授業の中で、意見をみんなで共有しやすい場を設けてもらい、そこでみんなで議論したりする教育を受けたい。
〈2年・女子（1）・渡航経験有〉

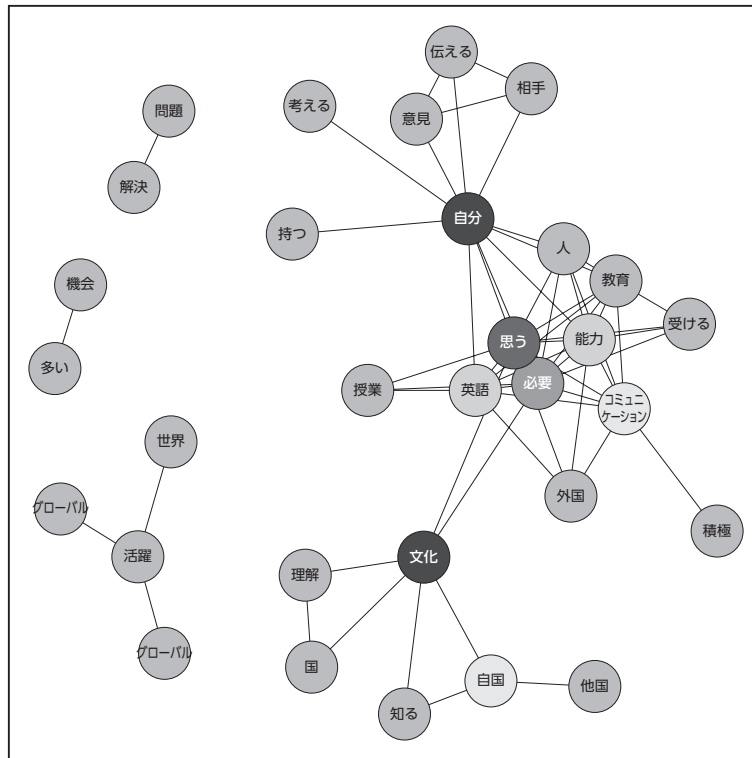
最も必要なのは、自分以外の人の意見を聞き入れ様々な視点で物事を考えることのできる能力だと思います。また、人の意見を聞くだけではなく自分で考えた意見を発信することのできる能力やその場面に応じた対応のできる行動力が必要だと思います。そのためにも英語力は欠かせないことですし、人とのコミュニケーション力が必要だと思います。私はそのためにも英語力を鍛えたいと思います。もし私が海外に行ったときにあいさつ程度の英語では言語の壁は越えることはできないと思うので英語教育の進んでいるこの学校でもっと海外で使える英語力を身に着けたいと思います。そのあとにコミュニケーション力もつけていきたいです。
〈2年・男子（2）・渡航経験無〉

7-3. 各キーワードの文章内における関係性—共起ネットワーク図からの分析—

各キーワードの文章内における関係性やキーワード間のつながりを検討するために、さらに、KH Coderにより、機械的に抽出されたキーワードに関して、共起ネットワークと呼ばれる図を作成した。なお、共起ネットワークの図は、その上下左右などの配置位置は意味を持たないし、作図時の設定の違いで図の形や配置が変化するため、大まかな傾向をつかむための参考資料という位置づけである。

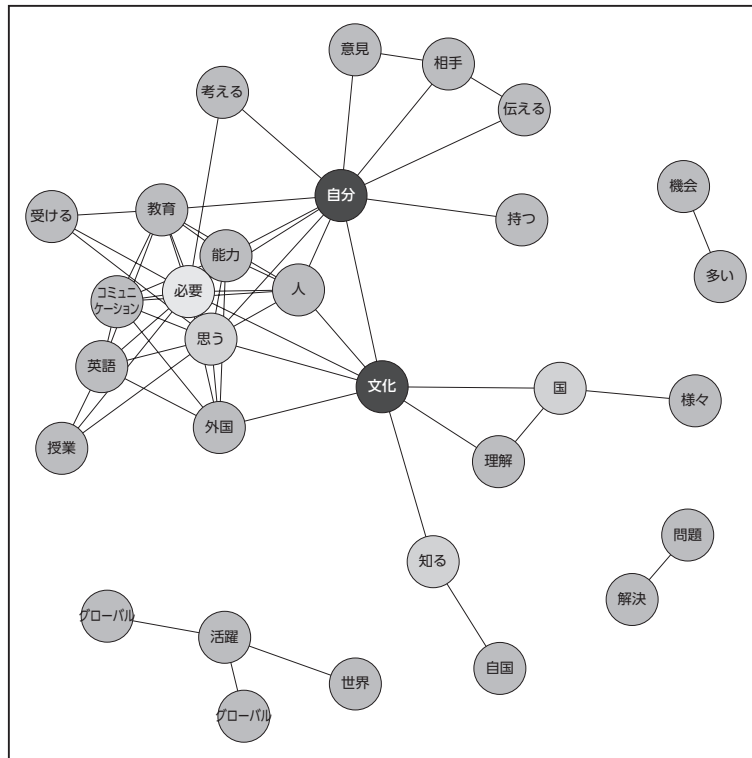
ネットワーク図として、全体、女子、男子、渡航経験有、渡航経験無の5つの図を示す。なお、ネットワーク図の中に「グローバル」という同じワードが出てくるが、これは、名詞として使われているか、形容詞として使われているかで区別されて分析されたことによる。

図表7-7 全体の共起ネットワーク図

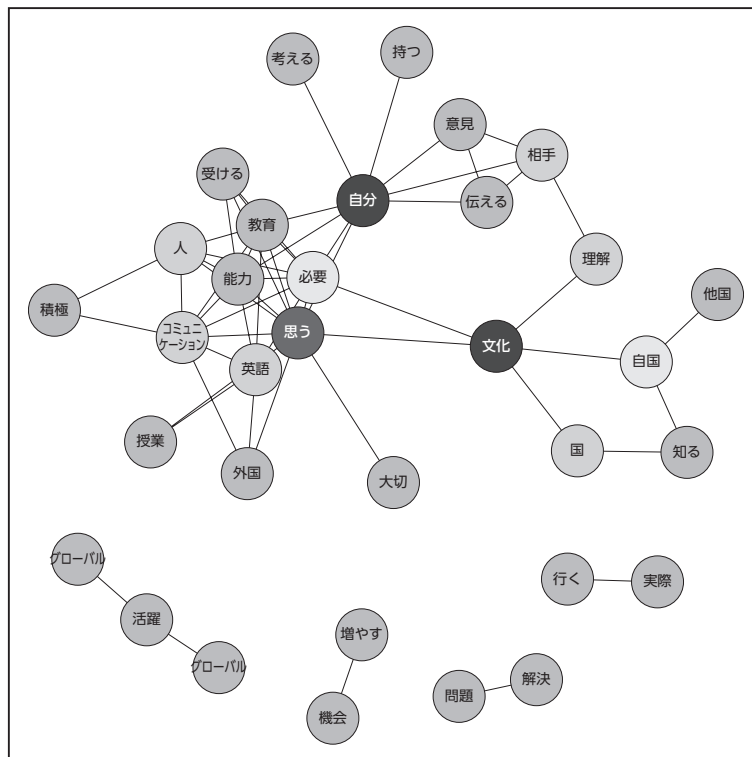


性、学年、渡航経験等に関係なく、データ全体に対しての各ワードのネットワークは、「自分」を中心に「相手」「意見」「伝える」という塊と、「英語」「能力」「コミュニケーション」「教育」「授業」「受ける」「必要」「思う」という塊がある。この塊の中の「英語」「必要」という言葉と「文化」がつながり、「文化」は、「理解」「国」ということばとつながり、また、「自国」「他国」「知る」ということばとつながり、もう一つのネットワークを形成している。そしてこれらのネットワークとは別に、「世界」「グローバル」「活躍」というつながり、「問題」「解決」というつながり、「機会」「多い」というつながりが形成されている。

図表7-8 女子の共起ネットワーク図



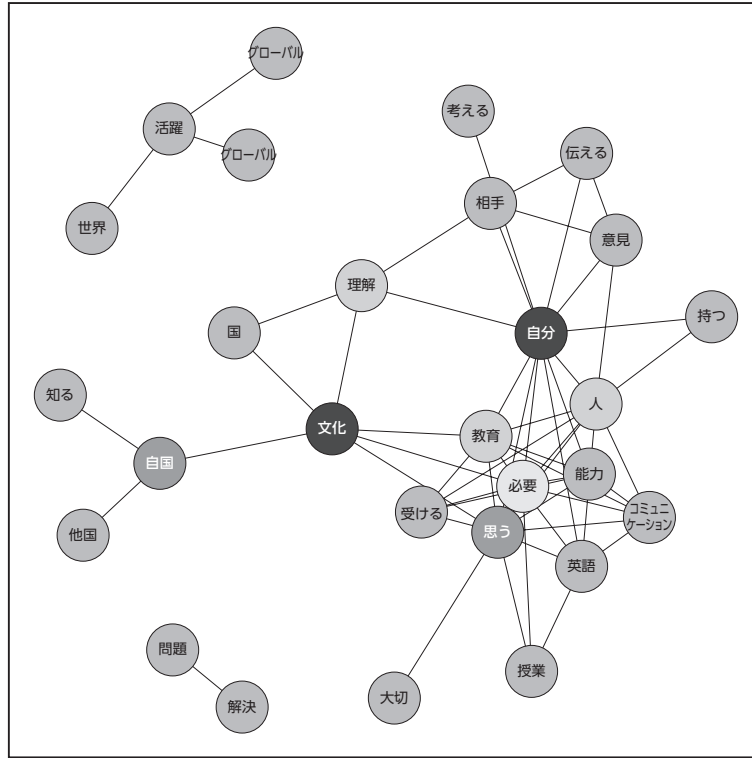
図表7-9 男子の共起ネットワーク図



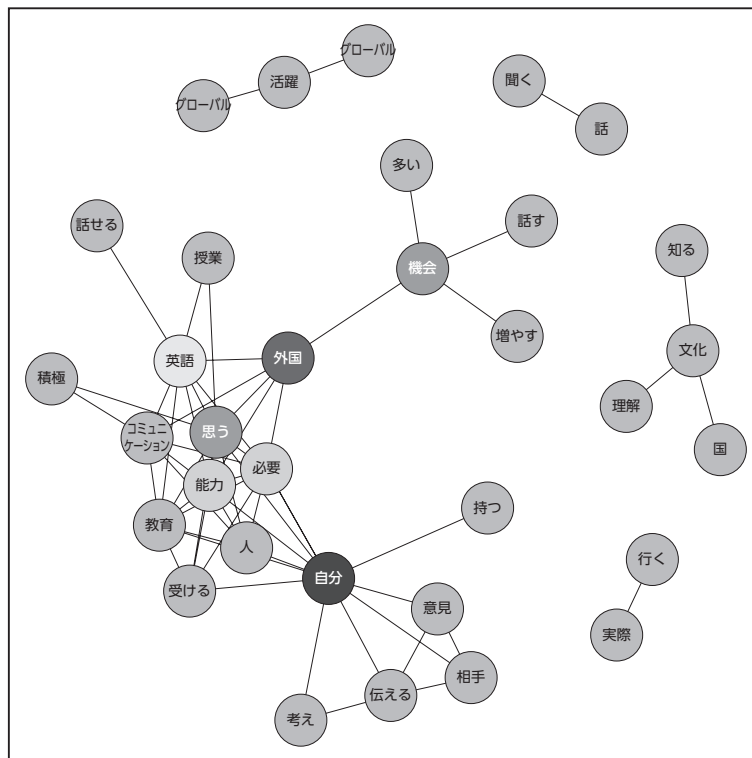
【女子】【男子】ごとでネットワーク図の比較を行っても、基本的には、「自分」を中心に「相手」「意見」「伝える」という塊と、「英語」「能力」「コミュニケーション」「教育」「授業」「受ける」「必要」

「思う」という塊が中心となっている。ここに、「文化」は、「理解」「国」ということばとつながり、また、「自国」「他国」「知る」がつながるといふ基本的なネットワーク構造に大きな違いはみられない。ただ、「男子」では、それまで見られなかった、「実際」「行く」といふネットワークがでてくる。

図表 7-10 渡航経験有の共起ネットワーク図



図表 7-11 渡航経験無の共起ネットワーク図



【渡航経験有】【渡航経験無】という層での比較を行ってみると、「渡航経験有」では、基本的な構造は、「全体」「女子」「男子」と変わらない。ただ、「渡航経験無」において、「文化」というキーワードが、「知る」「理解」「国」という塊で独立する。また、「男子」と同じように、「実際」「行く」というネットワークが出てきている。

7-4. 小括

- ・KH Coderによる自由記述の反応の分析においては、女子、男子、渡航経験有、渡航経験無の4つの群において、名詞では、ベストファイブに、「能力」「英語」「コミュニケーション」「自分」の4つの言葉が共通して上がってきている。
- ・サ変名詞では、「教育」はいずれの群でも突出して頻度が高く、「授業」「理解」「意見」の3つのキーワードは、順位は違うものの共通した言葉として上がってきている。
- ・形容動詞では、「必要」「大切」「重要」という言葉と、「様々」「いろいろ」という言葉、そして、「グローバル」という言葉が共通して上がってきている。
- ・動詞では、「思う」「考える」「受ける」「話す」という言葉が上がってきている。
- ・各群ともに、上位に上がってきている言葉は、ほとんどが共通しており、頻出ワードを見る限りにおいては、群ごとの特徴を見出すことは難しい。
- ・共起ネットワーク図における分析では、データ全体においては、「自分」を中心に「相手」「意見」「伝える」という塊と、「英語」「能力」「コミュニケーション」「教育」「授業」「受ける」「必要」「思う」という塊が2つの大きなネットワークを形成している。
- ・このネットワークの中の「英語」「必要」という言葉と「文化」がつながり、「文化」は、「理解」「国」ということばとつながり、また、「自国」「他国」「知る」ということばとつながるというように、もう一つのネットワークを形成している。
- ・これらのネットワークとは別に、「世界」「グローバル」「活躍」というつながり、「問題」「解決」というつながり、「機会」「多い」というつながりが形成されている。
- ・これらのネットワークの構造は、【女子】【男子】【渡航経験有】【渡航経験無】の層で分析をおこなったが、ほとんど基本的な構造は変わらなかった。
- ・ただ、【男子】と【渡航経験無】において、「実際」「行く」というネットワークが別個存在している。また、「渡航経験無」において、「文化」というキーワードは、「知る」「理解」「国」と塊を形成している。

第8章 PPDAC—科学的な問題解決方法—

8-1. 結果の概要

PPDACは科学的探究、またデータに基づく問題解決のプロセスであり、Problem→Plan→Data→Analysis→Conclusionの5つのステップからなる。ニュージーランドでは、統計的探究としてPPDACに基づく科学的探究の教育が小中学校、高等学校に渡って行われている。日本でも、現行の学習指導要領で掲げられた生きる力の重要な要素としての、科学的探究力や問題解決力と密接に関連している。問題解決力について問うたQ10では、問題解決力をPPDACに照らして、6段階評価で尋ねた。

どの項目も概ね、学年とともに平均が上昇している。我が国で平成24年から数学、理科、情報に導入された科学的探究力と問題解決能力の育成を目指した内容が、一定の成果をあげていることが示唆されている。学年とともに標準偏差も増加する傾向が見られていて、生徒間の自己評価のばらつきが学年とともに大きくなっていくことも示唆される。

幾つかの項目で、男女の差も見られている。例えばC.a、C.b、E.bは自己の経験に基づく具体的な評価が可能なスキルについての問いであり、これらの項目での男女の差は小さい。その一方で、例えばA.a、A.b、A.cなど、問題解決能力に必要なコンピテンシーについて尋ねた項目では、男女の差が大きくなる傾向が見られた。このことの男女の文系と理系の比率と関係しているか、また各校のカリキュラムの特徴の影響かは、本調査からは分析できないが、引き続き検討する必要があると考えられる。

さらに一部の問いでは、高校3年生の回答の平均の高校2年生と比較して低下する傾向が見受けられる。これが高校3年生という学年に特有の現象か、また現行の学習指導要領が平成25年度入学生から適用（数学及び理科は平成24年度入学生から）されていることが一因か、今後も継続して観測することが望まれる。

また、B.a、B.c、C.a、D.b、E.bといった生徒が自身のスキルやコンピテンシーに関する、体験に基づいた自己評価が可能な項目の平均は、1年と2年間の開きが大きく、2年と3年では開きが小さいか逆に減少している傾向が見られた。そしてこれらの項目には男女であまり差がないのも特徴的である。このことは、教育効果の測定に関して、興味深い問題提起になるかもしれない。

8-2 項目ごとの検討

ここでは、項目群ごとの回答から見られる傾向に言及していく。

A 問題発見力

図表 8-1 問題発見力についての問いへの回答

			Q10. 問題解決力 (PPDAC)						Q10. 問題解決力 (PPDAC)		
			n	平均	SD				n	平均	SD
A a	a	1年女子	494	3.82	1.07	A c	c	1年女子	494	3.90	1.06
		2年女子	438	3.93	1.03			2年女子	438	3.99	0.98
		3年女子	211	3.97	1.12			3年女子	211	3.98	1.11
		1年男子	319	3.88	1.19			1年男子	319	4.03	1.17
		2年男子	292	4.07	1.17			2年男子	292	4.14	1.15
		3年男子	157	4.27	1.18			3年男子	157	4.22	1.22
		Total	1,911	3.95	1.12			Total	1,911	4.01	1.10
		A b	b	1年女子	494			4.20	0.99		
2年女子	438			4.26	0.96						
3年女子	211			4.20	1.04						
1年男子	319			4.24	1.09						
2年男子	292			4.39	1.14						
3年男子	157			4.41	1.17						
Total	1,911			4.26	1.05						

Q10のAはPPDACプロセスのP (Problem) に関して、3つの項目の自己評価を問うている。これらの項目への回答をまとめた表1からは、本質の発見や原因の説明 (A. a)、問題の重要度の根拠の発見 (A. c) は学年ごとに増加する傾向を持つが、問題の重要度の検討 (A. b) については若干高止まりしていることが窺える。問題の重要度についての認識は1年から自己評価が高いが、問題の本質と重要度根拠の発見力については、学年が上がるにつれて高まる傾向が見られるのは興味深い。

B 解決策立案力

図表 8-2 解決策立案力についての問いへの回答

			Q10. 問題解決力 (PPDAC)						Q10. 問題解決力 (PPDAC)		
			n	平均	SD				n	平均	SD
B a	a	1年女子	494	3.99	0.97	B b	b	1年女子	494	3.81	1.02
		2年女子	438	4.13	0.98			2年女子	438	3.97	1.04
		3年女子	211	4.14	1.10			3年女子	211	4.00	1.16
		1年男子	319	4.04	1.15			1年男子	319	3.86	1.21
		2年男子	292	4.16	1.13			2年男子	292	4.13	1.18
		3年男子	157	4.24	1.18			3年男子	157	4.25	1.22
		Total	1,911	4.09	1.06			Total	1,911	3.96	1.12

		Q10. 問題解決力 (PPDAC)		
		n	平均	SD
B c	1年女子	494	3.99	1.07
	2年女子	438	4.16	1.10
	3年女子	211	4.23	1.17
	1年男子	319	3.88	1.30
	2年男子	292	4.18	1.12
	3年男子	157	4.19	1.22
	Total	1,911	4.08	1.15
	B d	1年女子	494	3.91
2年女子		438	4.05	1.06
3年女子		211	4.08	1.09
1年男子		319	3.97	1.22
2年男子		292	4.22	1.09
3年男子		157	4.21	1.14
Total		1,911	4.04	1.10

		Q10. 問題解決力 (PPDAC)		
		n	平均	SD
B e	1年女子	494	3.74	1.03
	2年女子	438	3.90	1.05
	3年女子	211	3.90	1.17
	1年男子	319	3.97	1.22
	2年男子	292	4.05	1.15
	3年男子	157	4.10	1.23
	Total	1,911	3.91	1.13

Q10の項目群Bは、PPDACの二つ目のPであるPlanについて尋ねている。表2から、5つの項目のうち、問題の原因の多面的な検討 (B.a)、問題の原因の候補のグループでの検討 (B.c) は、情報科目での体験があるのか、男女に差がなく、1年よりは2年の方が平均が高く、2年と3年は少し緩やかな差が見られる。一方で、生じている問題の説明 (B.b)、問題の原因の重要度のまとめ (B.d)、問題解決のための仮説立案 (B.e) には学年差および男女差が見受けられる。このことが情報科目の開講学年、また生徒の文系理系の別とどのような関係があるか、気になっている。

C データ・情報の収集力

図表8-3 データ・情報の収集力についての問いへの回答

		Q10. 問題解決力 (PPDAC) (F1) 分析因子		
		n	平均	SD
C a	1年女子	494	4.13	1.10
	2年女子	438	4.25	1.09
	3年女子	211	4.22	1.18
	1年男子	319	4.10	1.20
	2年男子	292	4.26	1.12
	3年男子	157	4.27	1.23
	Total	1,911	4.19	1.14

		Q10. 問題解決力 (PPDAC) (F1) 分析因子		
		n	平均	SD
C b	1年女子	494	4.06	1.06
	2年女子	438	4.21	0.99
	3年女子	211	4.18	1.11
	1年男子	319	4.18	1.18
	2年男子	292	4.24	1.20
	3年男子	157	4.32	1.18
	Total	1,911	4.18	1.10

		Q10. 問題解決力 (PPDAC) (F 1) 分析因子		
		n	平均	SD
C c	1年女子	494	3.76	1.06
	2年女子	438	3.86	1.00
	3年女子	211	3.98	1.13
	1年男子	319	3.90	1.18
	2年男子	292	4.01	1.15
	3年男子	157	3.99	1.25
	Total	1,911	3.89	1.11

Q10の項目群Cで尋ねているのは、PPDACプロセスの中のD (Data) に関する問いであり、データ・情報の収集力を問うている。3つの項目のうち、データや情報の収集力 (C.a) が1年と2年の開きが大きく、2年と3年の開きが小さい。しかし、個別に差がありそうなデータや情報の目的にあった選択力 (C.b) と、データや情報の精度の評価力 (C.c) は、少し様相を異にする。これらの傾向の、数学 I におけるデータの分析、また社会と情報などの内容との関連の検討が望まれる。

D 分析力

図表 8-4 分析力についての問いへの回答

		Q10. 問題解決力 (PPDAC) (F 1) 分析因子					Q10. 問題解決力 (PPDAC) (F 1) 分析因子		
		n	平均	SD			n	平均	SD
D a	1年女子	494	3.95	1.16	D c	1年女子	494	3.83	1.03
	2年女子	438	4.25	1.09		2年女子	438	3.98	1.03
	3年女子	211	4.08	1.26		3年女子	211	3.93	1.13
	1年男子	319	3.97	1.26		1年男子	319	3.89	1.19
	2年男子	292	4.03	1.22		2年男子	292	4.09	1.14
	3年男子	157	4.06	1.37		3年男子	157	4.13	1.26
	Total	1,911	4.06	1.20		Total	1,911	3.95	1.11
	D b	1年女子	494	3.92		1.09			
2年女子		438	4.13	1.10					
3年女子		211	4.06	1.20					
1年男子		319	3.92	1.24					
2年男子		292	4.12	1.18					
3年男子		157	4.03	1.29					
Total		1,911	4.03	1.17					

Q10の項目群Dでは分析力として、PPDACのA (Analysis) に関する3つの項目を尋ねた。データの図表への要約 (D.a) は、項目群Cと同様に理数教育での内容と関連があるが、男子が平均4前後なのに対して、女子は2年の平均だけ約4.2と少し高い。この平均の差異が、男女の文系理系の

差、各校での現行指導要領の差、あるいは統計に関する内容の学習後の自己評価が高いのかなど、更なる検討が必要と感じている。作成した図表の活用（D.b）の平均に男女差がなく、分析した結果からの結論の導出（D.c）に男女差が見られるなど、この問いの3項目の平均はいずれも特徴的な推移を見せている。

E 提案力

図表 8-5 提案力についての問いへの回答

		Q10. 問題解決力 (PPDAC) (F1) 分析因子					Q10. 問題解決力 (PPDAC) (F1) 分析因子		
		n	平均	SD			n	平均	SD
E a	1年女子	494	3.71	1.09	E c	1年女子	494	3.60	1.10
	2年女子	438	3.93	1.05		2年女子	438	3.81	1.08
	3年女子	211	3.93	1.18		3年女子	211	3.80	1.25
	1年男子	319	3.86	1.26		1年男子	319	3.73	1.20
	2年男子	292	3.98	1.22		2年男子	292	3.94	1.24
	3年男子	157	4.11	1.26		3年男子	157	3.96	1.27
	Total	1,911	3.88	1.16		Total	1,911	3.77	1.17
	E b	1年女子	494	3.65		1.20	E d	1年女子	494
2年女子		438	4.02	1.20	2年女子	438		3.73	1.14
3年女子		211	4.00	1.33	3年女子	211		3.86	1.27
1年男子		319	3.72	1.35	1年男子	319		3.80	1.26
2年男子		292	3.93	1.33	2年男子	292		3.83	1.27
3年男子		157	4.01	1.48	3年男子	157		4.00	1.30
Total		1,911	3.86	1.29	Total	1,911		3.77	1.20

Q10の最後の項目群Eは、PPDACプロセスに照らすと、問題を発見して設定し、解決策立案の計画を立て、解決のための情報やデータを集め、分析して結論に至った後の、それらを提案に繋げる力についての最終ステップ、C (Conclusion) について尋ねている。有効な問題解決の提案力 (E.a) は、男子の平均が1年から3年にかけて増加するのに対して、女子が2年と3年でほぼ同じとなるのが興味深い。この傾向は、男女の差があまりないものの、次のプレゼンテーション力 (E.b) にも見られる。提案内容の有効性 (E.c) は、男女に差があるものの、男女共1年と2年の差の開きがあるが、2年と3年の差はほぼない。逆に質疑への適切な対応 (E.d) は、1年と2年の差よりも2年と3年の差の方が若干大きい。この傾向が各生徒のプレゼンテーションでの経験に基づくものか、あるいは各校の授業内容の特徴、また工夫によるものかに興味がある。

8-3. 現行学習指導要領の下での理数教育との関連について

改めてQ10の問いは、高校の教科では数学と情報と理科が関連していることを確認しておきたい。数学Iの内容である「データの分析」、数学活用の内容である「社会生活における数理的な考察」、また理科課題研究、社会と情報、情報の科学なども含めて、現行学習指導要領で生きる力の要素として

取り入れられた、問題解決力と科学的探求力を育成する内容を含む教科で受けた教育、また経験が生徒に与える成長を、この問いでは問うている。

B.a. 問題・課題の多面的な検討、B.c. グループディスカッションによる議論の集約、C.a. 問題解決のための情報収集、D.b. 図表の活用、E.b. 提案のプレゼンテーションといった、教科「情報」と関連がある項目は、1年よりは2年の平均が伸びているが、2年と3年では平均にあまり差がないか、低下が見られる。これらの傾向と、現行学習指導要領の下での「社会と情報」もしくは「情報の科学」の開講学年との関係が気になっている。

また問題発見力を問うたAの3項目のうち、A.a. 本質の発見と原因の説明とA.c. 重要度の根拠の発見、は男子学生は3学年で直線的に伸びており、女子は1年と2年の差に比べて、2年と3年の差が小さい。この傾向は、B.b. 生じている問題の知識や経験を通じた説明力、にも見られる。同様の傾向を持つが、男子の2年と3年の間の差も小さくなるのが、重要度の評価に関するA.b. 問題の重要度の評価、B.d. 問題の原因とその重要度のまとめ、B.e. 問題解決のための仮説設定、D.c. 分析結果からの重要な結論の導出、E.c. 提案内容の限界の提示といった、問題解決力に関する5項目である。これらの傾向が、各学生の経験や授業での体験に基づく個別のものなのか、あるいは現行指導要領の導入からの経過年数の影響など集団的な傾向なのか、興味がある。E.e. 質疑への適切な応答、は1年と2年の間の開きよりも2年と3年の間の方が大きく、質疑への経験が積み重ねられてる様子が伺える。

残るC.b. データや情報の選択、C.c. データや情報の正確さの評価、D.a. データの図表への要約、E.a. 図表や分析結果の問題解決への活用、の4項目については、学年間の平均の開きや男女間の差異がそれぞれ異なった傾向を示している。これらはいずれも、データの活用に関する問いであり、数学Iあるいは社会と情報に関係がある。そして、この平均の推移が全国的な傾向なのか、それとも個別の教育機関のカリキュラムの特徴が表れているのか、各校の集計結果とこれらの集計表との比較と検討を、ご協力いただいた先生方をお願いできれば幸甚である。

8-4. 小括

- ・どの項目も概ね、学年とともに平均が上昇している。我が国で平成24年から数学、理科、情報に導入された科学的探究力と問題解決能力の育成を目指した内容が、一定の成果をあげていることが示唆されている。学年とともに標準偏差も増加する傾向が見られていて、生徒間の自己評価のばらつきが学年とともに大きくなっていくことも示唆される。
- ・Problem（問題設定）に関して、問題の重要度の認識は1年から自己評価が高いが、問題の本質と重要度根拠の発見力については、学年が上がるにつれて高まる傾向が見られる。
- ・Plan（計画）に関して、回答の傾向と情報科目の開講学年、また生徒の文系理系の別とどのような関係があるかなどの検討をお願いしたい。
- ・D（データの取得）に関して、回答の傾向と数学Iにおけるデータの分析、また社会と情報などの内容との関連の検討が望まれる。
- ・A（分析）の項目は理数教育での内容と関連があるが、男女差が見られる。これが男女の文系理系

の差、各校での現行指導要領の差、あるいは統計に関する内容の学習後の自己評価が高いのかなど、更なる検討が必要と感じている。

- ・ C（結論）の項目は、男子、女子ごとに特徴的な学年推移を見せている。これらの傾向が各生徒のプレゼンテーションでの経験に基づくものか、あるいは各校の授業内容の特徴、また工夫によるものかに興味がある。
- ・ 現行の学習指導要領との関連、また各校のカリキュラムの特徴などと、今回のアンケートとの関連を学校別にご検討頂けたらありがたい。

次世代を担う高校生のグローバル意識と行動に関するアンケート調査

筑波大学SGH調査班

このアンケートは、高校生を対象として、グローバルな視点や考え方、行動について質問するものです。

- ・ 回答には約20分～25分かかります。
- ・ 各質問に、正解や不正解はありません。ありのままの気持ちを回答してください。
- ・ 途中で止めるとそれまでの回答も無効になります。できるだけ最後まで回答してください。
- ・ アンケートウェブサイトはSSL（Secure Socket Layer）暗号化コミュニケーションにより、個人情報が保護されています。
- ・ あなたの回答は、大学研究者が厳重に管理し、個人名はもちろん、学校名が公表されることは決してありません。また、調査結果は、高校生向けグローバル教育プログラムのために活用されます。
- ・ 締切日（2015年5月16日）までに回答をお願いします。
- ・ 希望者の方には、2015年11月頃に、全体集計の要約をメールでお送りします（個人データの個別分析はいかなる形でも行いません）。関心のある方は、アンケートの最後にあるメールアドレス欄に送付先を入力してください（※氏名記載の必要はありません。また、入力されたメールアドレスは、本調査結果の要約を送付する目的以外には使用しません。）

以上の実施方法について同意された場合には、ご協力をよろしくお願いします。

Q 1. 最初に、あなたご自身についてお聞かせください。

a. 年齢

- 15歳
- 16歳
- 17歳
- 18歳以上

b. 性別

- 女性
- 男性

c. 学年

- 高校1年生
- 高校2年生
- 高校3年生

d. 学校制度

- 男女共学制
- 女子校
- 男子校

e. 以下に挙げた学校生活の活動に参加していますか？ あてはまる項目すべてを選んでください。

- 生徒会
- 部活動（文科系）
- 部活動（スポーツ系）
- 委員会活動
- 上記のどの活動にも参加していない

Q2. 国際的な経験

a. これまでに海外へ行ったことがありますか？

- ある
- ない ※Q3へ画面移動

※海外へ行ったことの「ある」人にお聞きします。

b-1. 海外には、通算で何ヵ国へ行きましたか？ ※プルダウンメニューで1～10か国+

行った外国数	1	ヵ国
--------	---	----

b-2. 上記b-1.で一番長く滞在した国はどこですか？ ※プルダウンメニューから国名を選択

国名	
----	--

b-3. 上記b-2.には、どのくらいの期間滞在しましたか？ ※プルダウンメニューから滞在期間を選択

期間	
----	--

Q 3. 国内、海外を問わず、これまでに異文化（生活様式や社会習慣、ものの見方などの違い）を体験した機会は、どのくらいありましたか？

- 全く無い
- 少ない
- どちらともいえない
- 多い
- かなり多い

Q 4. 以下のような意識や行動について、あなたの気持ちを6段階（1：「全くそうは思わない」～6：「非常にそう思う」）で表し、あてはまる番号を一つ選んでください。

- 1 全くそうは思わない
- 2 そう思わない
- 3 どちらかと言えばそう思わない
- 4 どちらかと言えばそう思う
- 5 そう思う
- 6 非常にそう思う

質問項目	1	2	3	4	5	6
a. 外国人と交流する機会があれば、その国の文化について自分が知っている知識を積極的に使ってみたい。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
b. 外国人と交流する機会があれば、その国の文化について自分が知っている知識が正しいかどうか確かめてみたい。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
c. よく知らない国の人たちの文化について、もっとよく知りたいと思う。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
d. 外国人とノンバーバル（声や表情、しぐさ）なコミュニケーションをとることができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
e. いろいろな国の人たちとの交流に興味がある。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
f. よく知らない国の人たちと親しくなれる自信がある。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
g. 初めて行く国でも、そこで楽しく生活することができるだろう。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q 5. 国の文化の違いから生じた、困った（困惑した）出来事に直面したことはありますか？

- ある ⇒Q 6 へ画面移動する
- ない ⇒Q 7 へ画面移動する

Q 6. その困った出来事の中で、とても記憶に残っている出来事を一つ思い出して、以下の質問にお答えください。

a. その出来事は、どこで発生しましたか？

国内 海外 (国名)

※プルダウンメニュー

b. その出来事は、どのくらい前に発生しましたか？

※プルダウンメニュー

c. その状況について簡単に説明してください (150文字程度)。

SQ 6-1. その出来事の目新しさを6段階 (1:「全く目新しくなかった」～6:「非常に目新しかった」) で表すと、どのくらいでしたか？

-
- 1 全く目新しくなかった
 - 2 あまり目新しくなかった
 - 3 どちらかと言えば目新しくなかった
 - 4 どちらかと言えば目新しかった
 - 5 目新しかった
 - 6 非常に目新しかった
-

SQ 6-2. その出来事の解決に関して、以下のような行動をどのくらいとりましたか？ 6段階 (1:「全く行わなかった」～6:「非常によく行った」) で表し、あてはまる番号を一つ選んでください。

- 1: 全く行わなかった
- 2: 行わなかった
- 3: どちらかと言えば行わなかった
- 4: どちらかと言えば行った
- 5: 行った
- 6: 非常によく行った

質問項目	1	2	3	4	5	6
a. 相手が置かれた立場や気持ちを察した。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
b. 必要ならば、最初に決めたことを変えた。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
c. 自分と異なる立場の人の価値観を尊重した。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
d. 複数の視点から問題の原因を考えた。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
e. 複数の選択肢を考えた。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
f. 相手が意見を述べやすいように心がけた。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
g. 相手との協力関係を築くように心がけた。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
h. 反対意見にも耳を傾けた。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
i. 自分の得意な能力を活かす行動をとった。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
j. 自分の意見を効果的に述べて相手に説明した。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
k. 解決が進んでいるか、途中で確認した。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
l. 今回の出来事から、学んだことを振り返った。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
m. 解決に向けて強い熱意をもち続けた。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

SQ6-3. その出来事は、その国の文化に対する、あなたの考え方について影響を与えましたか？

はい ⇒SQ6-4

いいえ ⇒SQ6-5

SQ6-4. その出来事後、あなたの異文化に対する考え方や行動はどのくらい変化しましたか？

あてはまる番号すべてを選んでください（複数回答可）。

- 1 異文化を理解することの大切さを感じた。
- 2 異文化に対する興味や関心が高まった。
- 3 自分の異文化に対する価値観が変わった。
- 4 異文化に対する自分の行動を変えるきっかけになった。
- 5 異文化における新しい行動パターンを身に着けた。

SQ6-5. その出来事が発生する前の、その国の文化に対するあなたの理解度はどのくらいでしたか？ 6段階（1：「とても低かった」～6：「とても高かった」）で、あてはまる番号を一つを選んでください。

-
- 1 とても低かった
 - 2 低かった
 - 3 どちらかと言えば低かった
 - 4 どちらかと言えば高かった
 - 5 高かった
 - 6 とても高かった
-

SQ6-6. あなたが経験した出来事は、最終的にどのくらい解決しましたか？ 6段階（1：「全く解決しなかった」～6：「完全に解決した」）で、あてはまる番号を1つ選んでください。

1. 全く解決しなかった
2. あまり解決しなかった
3. どちらかと言えば解決しなかった
4. どちらかと言えば解決した
5. ほぼ解決した
6. 完全に解決した

(※入力後、Q8へ)

Q7. もし、あなたが国の文化の違いから生じる、困った（困惑した）出来事に直面したら、あなたは、どのくらい、以下に挙げる行動をとることができると思いますか？ 6段階（1：「全くそうは思わない」～6：「全くその通りだと思う」）で、あてはまる番号を一つ選んでください。

- 1 全くそうは思わない
- 2 そうは思わない
- 3 どちらかと言えばそうは思わない
- 4 どちらかと言えばそう思う
- 5 そう思う
- 6 全くその通りだと思う

質問項目	1	2	3	4	5	6
a. 相手が置かれた立場や気持ちを察するだろう。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
b. 必要ならば、最初に決めたことを変えるだろう。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
c. 自分と異なる立場の人の価値観を尊重するだろう。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
d. 複数の視点から問題の原因を考えるだろう。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
e. 複数の選択肢を考えるだろう。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
f. 相手が意見を述べやすいように心がけるだろう。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
g. 相手との協力関係を築くようにするだろう。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
h. 反対意見にも耳を傾けるだろう。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
i. 自分の得意な能力を活かす行動をとるだろう。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
j. 自分の意見を効果的に述べて相手に説明するだろう。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
k. 解決が進んでいるか、途中で確認するだろう。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
l. 今回の出来事から、学んだことを振り返るだろう。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
m. 解決に向けて強い熱意を持ち続けるだろう。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q 8. 外国のどこか一つの国について、以下 a. ~ e. について、どのくらい詳しく説明することができますか？ あてはまる番号を一つ選んでください。

- 1：全くできない
- 2：できない
- 3：どちらかと言えばできない
- 4：どちらかと言えばできる
- 5：できる
- 6：とてもよくできる

	1	2	3	4	5	6
a. 政治	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
b. 経済	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
c. 貧困問題	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
d. 歴史	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
e. 宗教	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q 9. 以下の各文について、あなたの気持ちや考えに最も近い番号を一つ選んでください。

- 1 全くあてはまらない
- 2 あてはまらない
- 3 どちらかと言えばあてはまらない
- 4 どちらかと言えばあてはまる
- 5 あてはまる
- 6 とてもよくあてはまる

I. 国際的な知識・情報	1	2	3	4	5	6
a. 外国語の資料（新聞、ニュース）を用いて、自分の興味ある話題に関する情報を積極的に収集することができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
b. 困難な課題を粘り強く考え、必要に応じて資料を調べたり、人に尋ねたりして解決できる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
c. 複雑な問題に直面しても、問題の要点や構造を整理しながら考えられる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
d. 説明が難しい複雑なテーマであっても、その要点を捉え、他の人へ分かりやすく伝えられる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
e. 自国の「歴史・文化」に関して、外国人に外国語で伝えられる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
f. 自国「政治・経済」に関して、外国人に外国語で伝えられる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Ⅱ. 自分自身について	1	2	3	4	5	6
a. 様々な外国へ行ってみたい。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
b. 外国の様々な異文化に触れることは楽しいと思う。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
c. 外国で生活をしてみたい。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
d. 多くの外国人と交流してみたい。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
e. 失敗を恐れずに様々なことにチャレンジしたい。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
f. 困難な状況があっても逃げずに、粘り強く立ち向かいたい。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
g. 自分に自信がある。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
h. 自分の短所よりも長所に目を向けている。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
i. 自分は人のために役立つことができる人間だと思う。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Ⅲ. 社会との関わりについて	1	2	3	4	5	6
a. 外国人や自分とは異なる文化に根付く人たちの行動を正しく理解したい。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
b. 人の考え方には文化差もあるが、個人差もあると思う。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
c. それぞれの人が持つ文化的な価値の違いを踏まえ、異文化差別や偏見などの社会的問題を考えるべきだ。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
d. 自分とは異なる考えを持つ人に直面しても、そのような違いが生じるのはなぜか考え、柔軟に他者を理解していきたい。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
e. 他の人と、うまく付き合っていくことができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
f. 初めて会う人とも、積極的にコミュニケーションをとることができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
g. わからないことがあれば、積極的に他の人に質問することができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
h. 多くの人の前で挨拶をするなど、自己表現をすることができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
i. 集団での問題解決場面において、率先してリーダー的な役割を担うことができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
j. 議論する際、自分だけが意見を述べることなく、参加者それぞれの意見を聞くことができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Ⅳ. 将来について	1	2	3	4	5	6
a. 自分の理想自己像をイメージし、多様な観点から職業を選択したい。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
b. 将来、どのような仕事をしたいかを十分に考えて進路を選択したい。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
c. 将来、外国で働くことも視野に入れて、職業を選択したい。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
d. 海外ボランティアなどの国際的な活動に積極的に参加したい。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
e. 将来は、外国の大学や大学院への留学も視野に入れて勉強したい。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

f. いつも何か目標をもって、それに挑戦しながら生きていたい。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
g. 自分のやりたいことを見つけ、それに情熱を傾けたい。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
h. 将来は国際的なリーダーとして活躍し、自国と世界の発展に貢献したい。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
i. 世界の様々な問題の解決に役立つ人材になりたい。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
j. 他の人の見本となるような優れた人間になりたい。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
k. 自国の文化や技術、考え方を世界や海外の人に積極的に伝え、自国の存在感を高めていきたい。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q10. 社会で起きるさまざまな問題に対する解決方法を見つけるために、あなたは、どのくらい、以下の方法を用いることができますか？ それぞれの項目について、6段階（1：「全くあてはまらない」～6：「とてもよくあてはまる」）で、あてはまる番号を一つ選んでください。

- 1 全くあてはまらない
- 2 あてはまらない
- 3 どちらかと言えばあてはまらない
- 4 どちらかと言えばあてはまる
- 5 あてはまる
- 6 とてもよくあてはまる

A. 問題発見力	1	2	3	4	5	6
a. 関心ある事柄について、その問題の本質を発見したり、原因を説明することができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
b. その問題がどのくらい重要であるかを考えることができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
c. 問題の重要度の根拠を見つけることができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
B. 解決策立案力	1	2	3	4	5	6
a. なぜ、そのような問題が生じているのか、いろいろな側面から考えることができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
b. 生じている問題について、知識や経験を通して説明できる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
c. 問題に影響を与える原因の候補をチームメンバーと一緒に検討して列挙し、まとめることができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
d. 問題の原因を挙げ、重要度をまとめることができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
e. 問題解決に向けて仮説を立てることができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
C. データ・情報の収集力	1	2	3	4	5	6
a. 仮説を確かめるため、データや情報を収集することができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

b. 問題解決に合ったデータや情報を選択できる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
c. 集めたデータや情報の正確さがわかる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
D. 分析力	1	2	3	4	5	6
a. 集めたデータを集計して、図や表にまとめることができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
b. 作成した図表について、必要に合わせた使い方ができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
c. 分析した結果から、重要な結論を導き出すことができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
E. 提案力	1	2	3	4	5	6
a. 作成した図表や分析結果を用いて、有効な問題解決策を提案できる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
b. 提案を適切にプレゼンテーションできる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
c. 提案した内容がどこまで有効かについて説明できる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
d. 自分の発表に対する質問に適切に回答できる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q11. 将来、グローバルに活躍するために、どのような能力が必要だと思いますか？ また、その能力を獲得するためにはどのような教育を受けたいと思いますか？

ご協力ありがとうございました。

※本調査結果（要約）を知りたい方は、下記にメールアドレスを記入してください。2015年11月頃にメール配信します。